



記入日	2019年1月8日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	02(授業実践①)
タイトル	【理科×社会×防災《理科編》】 火山の噴火実験～かたまる小麦粉で火山を再現
実践担当者のお名前	田中(理科科)・京(社会科)
実践にかかった金額	5000円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月25日～29日
実践の所要時間	50分授業2コマを3クラスで実施。
実践の運営側で動いた人の人数	2人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校化学室・普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	理科教員, 小麦粉, アクリル板, ドリル, 無水エタノール, 白衣, シリコンチューブ, 注射器, 火山研究をする大学院生

達成目標	教科書に載っていない実験方法で火山の噴火の様子を分析する。自分でマグマを配合し, 噴火させて固まることでマグマの粘度や火山砕屑物, 火山の形ででき方のイメージを具体的に持つ。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり



実践内容・方法

1 時限目 (@普通教室)

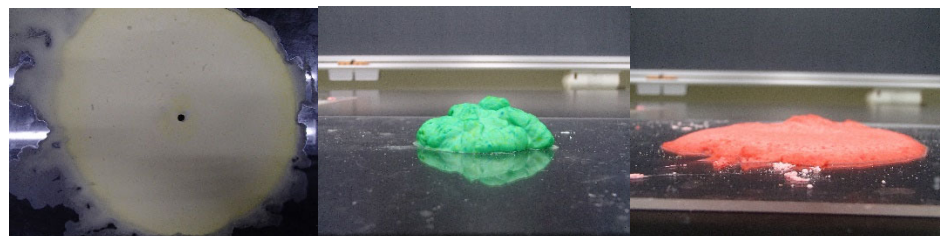
火山の導入を授業で行い、動画で溶岩ドームの形成をタイムラプスで記録した動画、成層火山の噴火動画、楕状火山の溶岩が市街地に流れる様子の記録動画を鑑賞。火山噴出物の説明や火山が形成される地域的特性の説明を行う。授業の終盤で最初に観た動画で出てきていたものが溶岩であることを確認し、次授業では動画で確認できた「流れない溶岩」と「流れる溶岩」の違いを確かめる噴火実験を行うことを予告した。

**2 時限目** (@化学室)

小麦粉と無水エタノールを混ぜてマグマの代替として用意する。この時、小麦粉と無水エタノールは配合の分量を変えて3段階の粘度になるように調節する。

穴の開いたアクリル板にシリコンチューブをつなげ、先端部分を紙粘土で固定する。シリコンチューブはできたマグマ液が詰められた注射器とつなげて、ゆっくりと押し出すようにする。各班は1種類のみマグマの押し出しを行い、自分以外の班の押し出しを観察させてもらい、自分たちの班のものと比較するように指示をした。

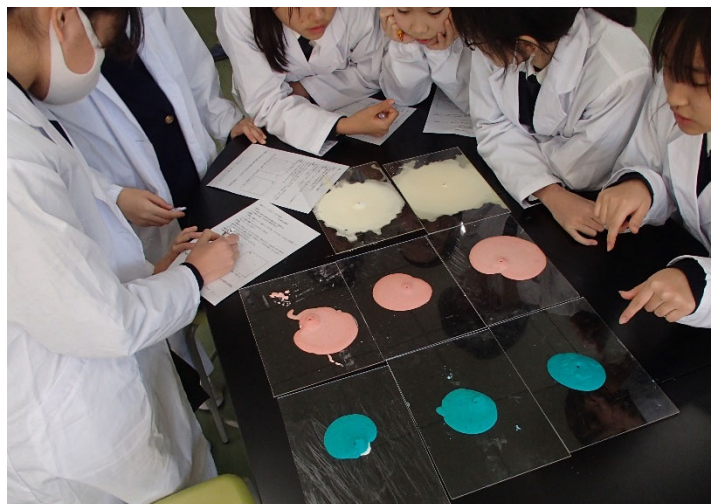
ゆっくりと押し出すことによって粘性が低いものでもアクリル板からこぼれ落ちることなく楕状火山を形成することができた。指示の解釈が不十分で急激な押し出しがあっても、シリコンチューブから火山砕屑物様の小麦粉が飛び出てきており、実感を持って火山砕屑物を理解できたようである。



実験後は、地理の教員から火山の特性などの解説やそれに伴う災害についての紹介をしていただいた。ついさっきまで実験で行っていたことが実際の火山のサイズで起こることで発生する被害について想像ができていた様子であった。



実験後の課題としては、マグマの違いがなぜ生じるか。なぜ無水エタノールを実験材料として採用したのかを考察課題とした。実験後の完成した火山については化学室後方の机に置き、自由に観察できるようにしたところ、自発的に比較観察を行っている様子が確認できた。



なお、都合が合ったクラスについては東京大学地震研究所で火山の研究をする大学院生に実験を見学してもらい、コメントなどを頂戴した。生徒の実験と、大学での火山研究の話を繋げてくださったことで、生徒は自分たちが楽しく取り組んでいた実験を再評価し、学びの意義が深まっていた様子だった。(▼下の写真右)



社会科の教員はTTとして、実験に参加し、理科科教員の実験の説明のサポートや、実験の間は机間巡視し、適宜、実験のサポートを行った。(社会の教員も白衣を着て授業に参加すると、普段見ない光景に生徒の関心が高まる。)



得られた成果	火山噴火の実験は教科書に記載のものよりも実際に固まった方が分かりやすい上、白衣などの衣服に飛び散って固まったもので溶岩のイメージを想起できる。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫 工夫	小麦粉と無水エタノールの配分は、小麦粉の粒度などでも粘度が大きく異なるので自分で試作することが必要です。注射器は無水エタノールでゴム部分がかなり劣化するのでディスポのものが適しています。	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	理科教員
伝えたい内容	噴火後に固まる材料選びを行うことで、生徒は火山のイメージが強くなります。



記入日	2019年1月8日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	3(授業実践②)
タイトル	【理科×社会×防災《社会編》】 逆転の発想!「地域の特性ではない」災害をどう教える? —理科&社会コラボ授業で提案する「火山が身近でない地域」における火山学習のアイデア
実践担当者のお名前	京(社会科)・田中(理科科)
実践にかかった金額	1万円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月25日~12月16日
実践の所要時間	50分(授業1コマ)+宿題→2クラス 100分(授業2コマ)→1クラス
実践の運営側で動いた人の人数	3人:教員(2), 授業ゲスト(1)
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 化学室・各HR教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パワーポイント, 新聞記事を使ったワークシート, 火山の噴火動画, 火山を研究する学生

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>①「地域の特性や実情に合わせた防災教育」の重要性は指摘されるが、では、逆に身近ではない災害に関する教育はどうしたら効果的に行えるだろうか。生徒は現在住んでいる身近な地域以外で災害に遭う可能性も十分ある。そこで、本実践では、教科横断的授業により、生徒が災害について「頭と心で学ぶ」ことを目指す。</p> <p>②具体的には、理科と社会のコラボ授業を行うことで、理科で火山の噴火のメカニズムを学び、同時に社会の視点からは、「ミッション学習」を通じて、火山災害に対する防災意識と知識を持たせることを目標とした。</p>
------	---



	<p>③生徒は将来的に居住や旅行，仕事などで様々な地域に行くことになる。その際に，自分が行く場所の自然特性や災害リスクをその都度，調べる意識と行動力を身につけてほしい。その際，「自分たちが安心して住むために地域を調べる」「楽しむためにリスクを調べる」という前向きな意識を持って行動してほしい。</p> <p>④火山の噴火に関しては，「運の問題」「噴火に直面したら助からない」という意識が，地震以上に強いように感じるものが，これまで何度かあった。この意識の転換を目指す。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>①本校は，富士山が学校から見えるものの，活火山が身近にある地域ではない。火山の学習に対して，生徒はなかなか実感を持たず，理科で実験を行っても単に「楽しかった」で終わりがちである。授業では「自分が一生の中で大きな地震に遭うと思う人？」という問いにはほぼ全員が手を挙げるが，「火山の噴火に遭うと思う人？」という問いに手を挙げるのは1～3割程度である。</p> <p>②学校現場では，地域の特性に応じた防災教育が行われている。これは裏返すと，その地域で身近ではない災害に対しては，教育や訓練があまり行われていないということである。この点に対して，「生徒がどこにいても，何をしていても助かること」を目標に防災教育に取り組んでいる立場から，課題意識と危機感を持った。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>1 時間目 = 《理科編》の2 時間目に該当【実践番号 02】</p> <p>※実験の手法と様子については《理科編》を参照</p> <p>↓</p> <p>2 時間目 = 社会の授業</p> <p>①前時のふりかえり</p> <p>実験の感想を聞いたり，大学院生のコメントを伝えたりした。</p> <p>②社会科としての火山学習（パワーポイント）</p>	



A 人生の中で、
自分はいつか
大きな地震に遭うと
思う人？

B 人生の中で、
自分はいつか
火山の噴火に遭うと
思う人？

《PART1》火山アンケート

C 火山に登ったことのある人？

D 火山の近くに
住んでいたことのある人？

(A)⇒ほぼ 100%の生徒が、迷いなく手を挙げる。

(B)⇒1～3 割程度の生徒が手を挙げる。

手を挙げるか戸惑う様子も見られる。

(C)⇒富士山に登ったことがある生徒が手を挙げることが多い。

(D)⇒静岡や鹿児島に住んでいたことのある生徒が手を挙げる。※火山について小学校などで学んだか、火山学習の聞いても良い。

《PART2》各地の火山を見てみよう

○九州の地名当てクイズ

→鹿児島では天気予報の一部で「降灰予報」が流れることを紹介する。ツイッターなどでも情報が出されていることを紹介する。

○各地の火山…三宅島の噴火を紹介する。

○各地の火山…昭和新山に関して、クイズを出題する。

Q. いつ誕生したでしょう？

①約 80 年前 ②約 800 年前 ③約 8000 年前 (正解：①)

名称で分かりそうだが、思い込みで多くの生徒は②③に挙手する。

つい最近できた火山，ということを知り，驚きの声上がる。

⇒地理の視点から「造山帯」の話をする。

戦時中のできごとであることから，歴史の授業とも関連させる。

(例：終戦を迎えた年を確認する)

《PART3》御嶽山の噴火から私たちは何を学ぶ？

亡くなった方のカメラに残っていた御嶽山の噴火の写真を紹介する。



生徒が災害に対して，無力感を感じていることを見越して，

(E)の問いを示す。教員「地震も火山も台風も，日本は災害大国です。こういう話を聞いて，『もう助からない』と諦める人がいるかもしれません。どうしたらいいのでしょうか??」

E 様々な災害、
私たちはどうすればいいの？



F
なぜ、つらいはずの体験を話して下さるのだろう？

ご遺族の方が写真を公開したこと、新聞等のインタビューに答えていることを伝える。(F)の問いを投げかける。

「備え」をして登山していたことで、噴火した御嶽山で一晩を明かして、助かった女性のことも紹介する。

▼参考にした新聞記事 (NIE 学習) →③の資料としても使用

「命かけた写真, 安全対策に」池田の野口さん妻が公開

信濃毎日新聞ニュース 2014/10/03

生還女性が初めて語る「あの時」「焼け死ぬのか、溶けるのかな…」

産経ニュース 2015/09/28



③資料プリントの配布→各自, 黙読

資料活用ワンポイント★資料をじっくり読ませるコツ

しっかりと読み取ってほしい新聞記事等の資料の場合は、「読み取ろう」の問いを設定し、1 回目は普通に黙読、2 回目は問いの答えを探しながら読むように指導する。

「どうせ災害が起きたら、自分は助からない」「だから準備しなくていいんだ」…こう思っている人、主張する人は結構います。でも、視点を変えて「災害が起きて助かる人の方が多い」という事実に目を向けましょう。そして、備えているかどうかで運命が左右されることがあります。



☆あなたは、自分が行動することで、

自分自身や周りの人が助かる確率を何%上げられますか？

④ポスターの作成

◎社会の考察について ★Today's ミッション★

「火山の登山をする噴火の危険性について知らない人たちに、気をつけてほしいこと (火山の噴火に関して)」について知らせるポスターを考えよう。

※2 時間目は授業時間数に余裕のあったクラスで実施した。1 コマで実施のクラスは、理科の実験の授業内に、社会の教員の解説・資料配布 (10 分) を入れて、資料の読み込みとポスターは宿題とした。

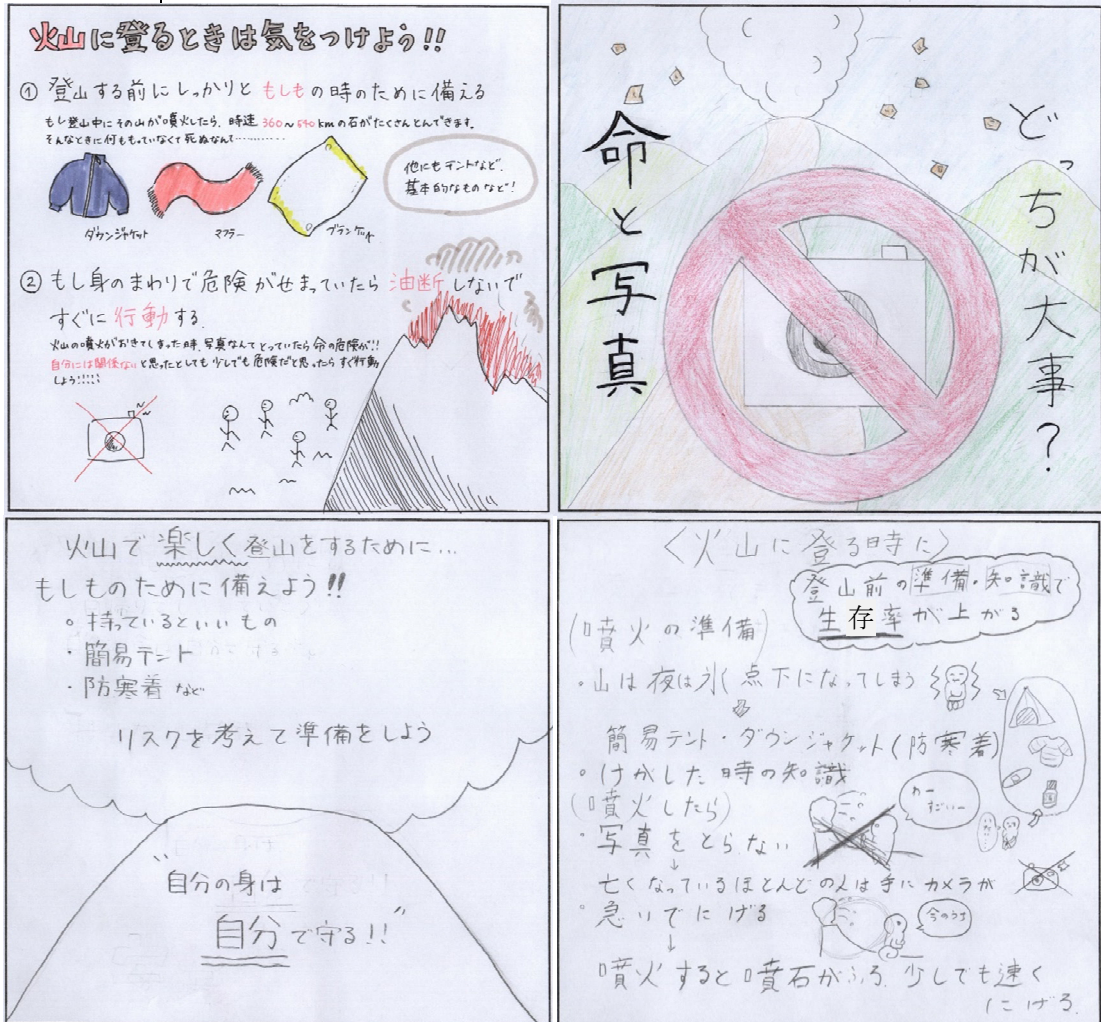


得られた成果

チャレンジ！身近ではない災害を「自分事」として捉えさせる！

- ・ポスターを描くために、理科の資料集を熱心に見たり、火山の知識をインターネットで調べる様子が見られた。

▼生徒の作成したポスター



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	災害学習を重ねる際には「日本に誇りが持てなくなる」「自然を恨む気持ちが出てくる」ことにも留意しなければならない。この課題に対しては、「火山があるからこそその恵み」についての資料を配布したり、調べたり考えさせたりする学習を併せて行うことが効果的である。多角的なものの見方も身に付くので、このようなメリットについての学習に定期的に取り組みたい。	

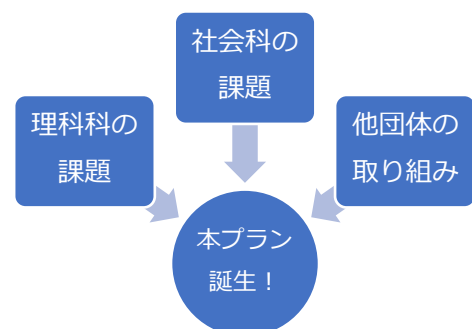
課題

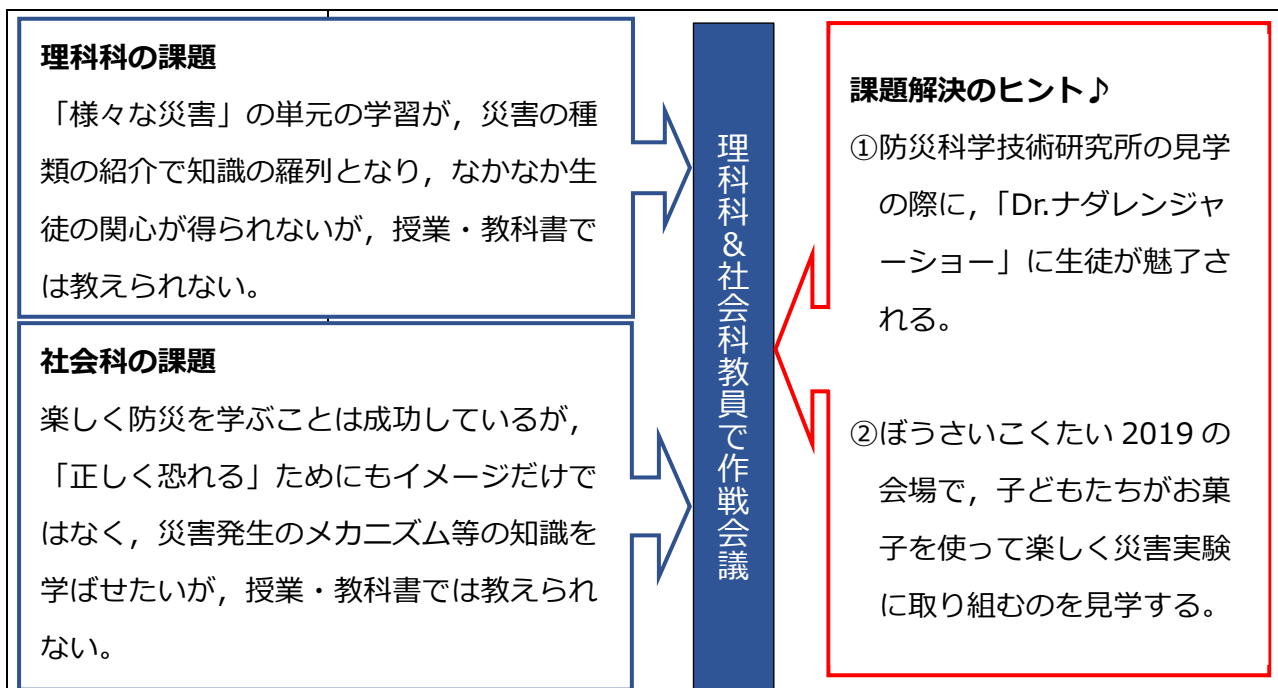
工夫



記入日	2019年1月8日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号	04(授業実践③)
タイトル	地震災害を分かりやすく。生徒が提案する実験授業。
実践担当者のお名前	田中(理科科)
実践にかかった金額	1000円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月11日～12月5日
実践の所要時間	2時間を3クラスで実施。
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校化学室・普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	理科教員, 園芸砂, わりばし, 発泡スチロール

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>地震の単元にある地震による災害のページでは各種の災害が文章中で述べられているだけで生徒に実感をもって学んでもらえない。そこで、生徒が自分たちで考案する実験を通じて原理や実際の被害の学習をねらいとした。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>①中学1年生の授業を担当する理科科と社会科の教員がそれぞれの教科において、防災教育上の課題を抱えていたことから、お互いの課題を出し合い、「楽しく主体的に生徒が学ぶ方法」を目標に解決策を考えた。</p> <p>②その際に学校外の取り組みに目を向けて、ヒントを得た。</p>
------	--





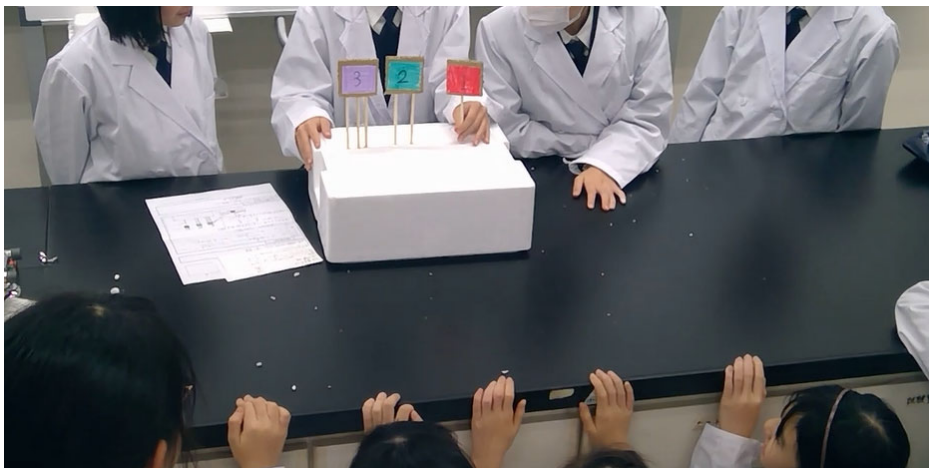
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>1 時限目 (普通教室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震による災害を授業内で取り扱い、グループごとに注意する事項や条件などを話し合いさせてから発問した。本校が私立ということもあり、生徒たちが普段生活する地域ではなく、外出先や校外行事という限定で想定させた。 ・授業のまとめ時に、本時のような内容を効率よく伝えるための実験を班ごとに考案してもらうように伝え、グループのワークシートを配付した。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>2 時限目 (生物室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にグループから提出された実験書の中から実践可能なものを選び、演示をお願いした。また、水槽や園芸砂などを使う必要があるため実験は生物室で行い、実験は授業の導入として実施した。 ・全クラスで異なる実験を行い、各グループに演示内容の原理説明をお願いした。採用された実験内容は液状化実験、共振実験、耐震強度実験となった。 	



▼実験準備の様子



▼「共振実験」



▼「耐震強度実験」



得られた成果

生徒が自分たちで実験を構築し、学習につながる実験となるかどうかは不安ではあったものの、結果として非常に良い教材ができた。生徒は友人の発表を真剣に聞き、自然に質問することができていた。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px;">課題</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px;">工夫</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の考案にあたっては学校にある設備，かつ購入する場合も金額の制限をかけて行ったため，再現性が高く，手軽に行える実験になった。次年度以降は発表できるグループ数を増やしていきたい。 ・11月16日に実施した防災社会科見学に向けての学習も兼ねて，理科の学習進度を合わせた。 	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	中学生
伝えたい内容	自分で実験を考えることで原理を自分でよく調べ，身に付けることができます。



記入日	2019年12月25日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	05(授業実践④)
タイトル	逆転の発想!!生徒「が」防災を教える防災教育 (中1防災社会科見学 生徒によるプレゼンテーション)
実践担当者のお名前	京・加嶋(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(主にプリント印刷・文房具)
実践の準備にかかった時間	1日(主に授業作り)
実践活動を実施した日時	準備:2019年9月下旬~11月15日 本番:11月16日13時00分~14時00分
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	23人:防災科学技術研究所(15)・教員(9)
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	準備:目黒星美学園中学高等学校 各普通教室・パソコン室 本番:防災科学技術研究所 和達ホール
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パワーポイント, プリント, ワークシート, 付箋

<p>達成目標</p>	<p>【目的・目標】</p> <p>初めて防災の授業を受ける中1が、防災に関するアイデア・提案を自ら考え、社会科見学で専門家の前で発表する。その中で、防災に対する生徒自身の抵抗感を無くすこと、及びコミュニケーション能力の向上を目指す。限られた授業時間数で実践を行い、効果を上げる。</p> <p>逆転の防災教育▶ 生徒の、防災に対する受け身意識の転換を図る。</p> <div style="text-align: center;"> <p>① 防災に対する抵抗感(心のバリア)を無くす ② 自助意識・主体性を育てる(“私が”意識)</p> <p>防災に対する開かれた心 学びに向かう姿勢の変化</p> </div>
-------------	--



生徒自身の防災への抵抗感を無くすには、最初に「考える」経験をさせることが有用である。特に効果的なのが、「生徒自身が防災について考え、大人に教える」という経験である。

○防災教育の初期の段階で、生徒の意識を転換することを目指した。

① 防災は「大人から教えてもらうもの」「誰かにやってもらうもの」でなく、「自分で考えるもの」「私自身が行動するもの」と捉える。

② 生徒が持つ防災に対するマイナスのイメージや抵抗感を取り払い、「プラスの感情」を持たせる。

③ 自らの考えを発信する面白さを経験し、学びの意義を見出す。

どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

(1) ワークショップの流れ

① 3～4名でチームを作る

② 「わくわくワークシート」…付箋にアイデアを書き出す

③ 「選択ミッション」…②で出したアイデアを土台にミッションAかBを選択し、3分間のプレゼンテーションにまとめる…⇒自由に出した付箋のアイデアを、「自信あり」「ちょっと良いかも」「ありきたり」に仕分けする（別のワークシート）

④ クラス内で発表し、各クラス2チームを代表として選出


(2) ミッション 2019

▼ワークショップ わくわくワークシート



外国から来た旅行者が日本で大きな地震に遭ったらどんなことに困るでしょうか。


LOST



あなた自身が言葉の通じない、文化も違う外国で災害に遭ったら…と想像してみるとアイデアが出てくるかも！

どうすれば皆、前向きに「自分のための防災」に取り組んでくれるようになるでしょうか。

どうすれば「自分が得するから備えよう！」と思ってもらえるでしょうか。



どうすれば、一人一人が「自分のために備えるのが当たり前」「災害ごとに自分で考えて行動することが当たり前」と思うようになるでしょうか？

どうすれば、防災のイメージアップができるでしょうか？



授業
プリント

★ミッションAーオリンピック目前！おもてなしプロジェクト

皆さんは、東京オリンピックに向けて、「おもてなしぼうさいプロジェクト」の担当になったとします。外国の人たちを迎えるにあたっての防災のためのアイデアを提案してください。

☆ポイント：ただし、日本の中でも防災意識が低かったり、備えは十分ではないので「外国から来る人たちのために私たちが全部準備します！」では実現可能性はないでしょう（涙）「外国から来る人たちにやってもらうと良いこと」とそれを実現するアイデアも考えてみてください。また、迎える日本側では、どのようなことを準備しておくか、もしもオリンピック期間中に（またはそれ以外の期間もたくさんの外国人観光客が日本に来ています）、首都直下地震が発生したときに少しでもよい対応が取れるでしょうか。国や東京など大きな視点だけではなく、私たち一人一人にできることの視点が大事です！



★ミッションBー当たり前を変えよう！

防災イメージアップ大作戦

どうすれば、皆が普段から自分のために前向きに備えるようになるでしょうか。日本の多くの人々が持っている防災のイメージを変えるアイデアも含めて、アイデアを提案してください。

▲チーム活動の様子

☆ポイント：日本では「災害が起きたら避難する＝避難所に行く」というイメージができています。そのため「国や区・市が備蓄品を十分準備しているはずだ」と誤解している人も多くいます。防災に対してネガティブなイメージを持っている人が多く、普段はみんななるべく考えないようにしています。しかし、首都直下地震ではどう考えても避難所にみんなが入ることは不可能です。自宅で工夫して生活したり、避難所に行く以外の方法をとることが必要です。いつ来るかわからない地震にしっかり備えておけば、毎年のようにやってくる台風のときにも役立ちます。「備えたのに無駄になった」と思ってしまう人もいますが、実際は、防災すれば得をします！ただ「備えよう！」と言っても何をすればよいか分からない人もいます。防災のイメージを変えるアイデア、皆に「行動しよう！」と思ってもらえるようなアイデアを期待しています♪

- ↓ ミッションAかBを選び、プレゼンに向けてアイデアを出す
- ↓ 自由に出したアイデアを仕分けすることで、
- ↓ 安易なアイデアを除き、ユニークなアイデアを見出す

これは自信あり！！

ちょっと良いかも♪

ありきたり(普通)かな～



(4) 代表チームのテーマ :

▼おもてなしプロジェクト

A-1「不安から安心へ」 B-3「つながる変える防災」

C-5「『避難所に頼らないマーク』の提案」

▼イメージアップ大作戦

A-3「女子中学生が考える防災の世界」

B-1「世界への OMO TENASHI」 C-2「備えれば“得”しかない！」

(5) プレゼンテーション本番



▼防災科研の研究者・専門員から質問していただいたことも、貴重な経験になった。



得られた成果

チャレンジ！最初の防災教育で生徒の防災イメージを 180 度変える！

- ・ 防災に対する生徒のイメージをネガティブからポジティブへ、態度を受け身から主体的なものに転換を図ることができた。
- ・ 防災科研の研究者の方が温かい視点で、生徒のプレゼンテーションを聴いてくださったことで、大きな自信になった。またプレゼンに挑戦したいという気持ちを持った生徒も多く、次のステップに繋がる経験になった。

**▼生徒感想文より
(一部抜粋)**

私は、今回の社会科見学の前までは、災害なんて滅多に来ないし防災なんかしなくても大丈夫だと思っていました。けれど、滅多に来ない災害の恐ろしさと備える大切さを知りました。今私たちにできる事を想像して備えていきたいです。防災は、自分を大切にする事だと思いました。



社会科見学を通して考えたことは、防災を前向きに考え、みんなにも伝えるということです。災害時落ち着いて対応できるように、普段からコミュニケーション能力を授業内で鍛えて行きたいと思いました。災害は、いつ来るか分からず、とても怖いですが、防災はとても楽しくできます。



私は防災科学技術研究所に行ったことで改めて『防災』をすることの大切さを知りました。しかし、私だけが知るだけでは意味がありません。この機会を知り、学んだことをこれから色々な人に伝え、そして伝えた人からまた違う人に伝わり繋がってゆくサイクルが増え続ければよいなと思いました。

防災の考え方、見方が変わりました。それは、私の班がプレゼンテーションをする班に選ばれたので、もっと深く考えられたのだと思います。私の班は、「おもてなしプロジェクト」に決め、発表しました。私の班の意見は、「にこにこ大作戦」、「かわいいおみやげ防災グッズ」です。一つ目の「にこにこ大作戦」は、災害時、パニックになっている時に笑顔で対応されたら相手も自然と笑顔になり、安心出来るのではないかという考えです。二つ目の「かわいいおみやげ防災グッズ」は、日本風の柄で海外の方のおみやげとしても使えるようなグッズを私たちが考え、イラストとともに発表しました。懐中電灯として使える万華鏡ライト、助けを呼ぶための桜ブザー、自分オリジナルの布製リュックサックを作る企画を立てました。これらの意見に対し、良い評価を頂けて良かったです。

私は、防災を学ぶ前は、「防災は、怖いもの」と思っていました。しかし、「防災は、一人一人が心がけなければならない大事な事」だという事が社会科見学を通して分かりました。そして、私のように怖いと思っている方が多いと思います。だから、周りの人へ防災は大事なんだという事を伝えていこうと思います。東日本大震災が起こった頃、私は幼稚園生でした。このような話をお母さんにし、災害時のリュックサックをみたら、サイズが小さい下着類が出てきました。私は、この事から季節や体に合わせたものを入れ替える必要があると思い、実行しました。






どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミッションのレベル設定が課題。大きなミッションにするとプレゼンテーションの内容がまとまらなくなり、テーマを絞り過ぎると生徒の自由な発想が出て来なくなるので、良いバランスを見つけるのが試行錯誤。 ・ 今回、生徒たちが張り切った分、発表内容が広がり過ぎたため、本番直前に、プレゼンテーション指導に学年と社会科の教員総出で指導に当たることになった。 	



記入日	2019年12月25日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	06(授業実践⑤)
タイトル	生徒の心に「防災マジック」をかけよう！ —効果を飛躍的に高める「防災教育1時間目」のススメ
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年9月下旬
実践の所要時間	15分(授業の一部として, 3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 中1の各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	プリント, パワーポイント

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>中1の防災教育1時間目。生徒たちは浮かない顔をしている。そこで、防災教育を始める時に、真っ先にすべきこととして「生徒の『心のバリア』を外す工夫」を行っている。そこには、生徒の防災に対する受け身の意識を「主体的に行動する態度」に転換するチャンスがある。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>以前、中1の授業で「防災」と言っただけで、生徒の表情が曇ったり、「怖いから止めて!」という声が上がったりしたことから、生徒の防災に対する「心のバリア」の存在に気づいた。また、生徒アンケートを通じて、生徒が災害と防災を同一視して、防災に対してネガティブな感情を抱いていることが分かった。</p>
------	--



	<p>▼生徒が1時間目に書き出した「防災と聞いて浮かぶ気持ち」</p>	
	<p>怖い、興味がない、日常が崩れることを想像して準備するのも怖い、やだなー、亡くなった方に失礼だからイメージがあまりよくない、防災の先生やゲストの人の話が長くて分からなくなる、面倒くさい、地震や災害を思い出したくない、難しそう、面倒で後回し、悲しい気持ちになる、災害のことを考えると本当に起きてしまいそうで怖い、結局何をするか分からない、つまらなそう</p>	
	<p>※勿論、大切なこと、しっかりやらなければ、防災に興味がある、いつか役立つといった意見もあったが、上記のようなネガティブな意見が多くあった。</p> <p>↓</p> <p>防災に対して、上記のようなネガティブな気持ちを持つ生徒たちを前に、危機感を高める目的であっても、「災害は怖い」というメッセージのみを送ることは、どのような効果を生むかは想像に難くない。知識・技能を教える前に、生徒の「心のバリア」を外すことが防災教育の効果高めると考える。</p>	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>実践内容・方法</p>	<p>教員が、わくわくしている雰囲気でも明るく授業を始める。</p> <p>▼授業用スライド</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>社会科見学に向けて</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">わくわく♪防災減災</p> <p>～もしものために今、できること～</p>  </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">  <p>皆さん「防災」と聞いて、やる気モードはどのくらいでしょうか？</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ぜひ、学びたい！</p> <p>つまらなそう ← → 楽しそう！</p> <p>やる気…う～ん</p> <p>先生は もちろんココ♪</p>   </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">わくわく!!</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">どきどき♪</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">きらきら★</p> <p>だから、実は困っています…</p>  </div> </div>	



わくわく防災減災

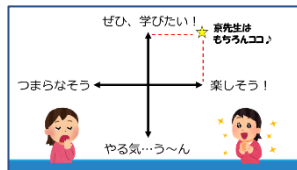
なぜ防災は**楽しくない**の？

①**防災**と聞いて…

- ・思い浮かぶもの
- ・感じる気持ち

②なぜ「防災」のイメージがあまり良くないのだろう？

皆わくわくしないの何で…!?



教員「皆さんの気持ちはどの辺りですか？」

生徒「左下」「つまらない」…

教員「先生はココです」（グラフ右上を指す）

生徒（笑）

教員「皆さんも、こんな気持ちになってくれるのを待っています！でも、だからこそちょっと困っていることがあるんです。」

生徒（？）



①**防災**と聞いて…

- ・思い浮かぶもの
- ・感じる気持ち

②なぜ「防災」のイメージがあまり良くないのだろう？

皆わくわくしないの何で…!?




教員「日本の社会の中に、防災意識が低いという課題があるんだけど、先生、防災が大好きだから、もはやその理由が分からなくて、困っています。だから、皆の本音を先生に教えて！」

生徒（周囲と相談して考える様子）

教員「皆の本音をどんどん書いてください。」

- ・最初の授業の出だしから「先生が防災を教える」というスタンスでなく、「全力で取り組んでいるけれど、先生だって困っている」「だから、皆と一緒に考えていきたい」という姿勢を前面に打ち出す。
- ・生徒の立場に立てば、「防災に詳しいはずの先生に、防災について頼まれて自由に意見を書き出す」という経験をする。
- ・「ネガティブな感情の理由」も正直に書いていい（むしろ書くと感謝される）という体験を通じて、「小さなアイデアでも、実は有用かもしれない」という印象を持たせる。また、「防災に興味を持っている」と書く生徒もたまにいますので、その意見も拾い上げる。























	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災とはどういうものだと思いますか？」という問いだと、「大事なこと」といった模範的な答えに偏る可能性があるため、上記のような問いで本音を書き出しやすい雰囲気づくりをする。 ・防災に対するネガティブな気持ちを明るい雰囲気の中で、書き出すことで、ネガティブな気持ちが経験の中で、いつの間にかできてきたものであることに気づく。外在化することで、あとで防災について関心のない人の意識を変えるアイデアを考える時に「自分だったらどうやったら動くか」といった思考になる。 	
<p>得られた成果</p> <p>▼ある日の 高校生の会話・・・</p> <div data-bbox="167 907 462 1198" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>私たち、防災マジックにかかって、いくらでも防災について話しているよね～</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来、防災に対して生徒のネガティブな気持ちを解消しないまま、防災教育を行ってきたことが、防災教育がなかなか効果的に行われない原因の1つだったのではないだろうか。将来的に大きな災害に繰り返し直面する可能性は誰しもが持つ。「未来に向けて考える」ために、開かれた心をつくることが大事である。 ・災害と防災をしっかり切り分けて、希望を持って防災に皆で取り組むという姿勢を貫くことで、生徒の「防災当たり前感覚」はポジティブなものになる。勿論、生徒によって取り組み・関心の度合いは違っているが、防災に対して、ネガティブな気持ちは払しょくできていると考える。知識は忘れやすいものであるが、卒業後も残るのは「イメージ」ではないか。(卒業生は、雑談はよく覚えている。) 知識と共に、そういった、「防災に対するポジティブイメージ」を育てる防災教育が大切だと考えている。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p> <div data-bbox="351 1680 454 1758" style="border: 1px solid black; background-color: #ccc; padding: 2px; margin: 5px 0;">工夫</div> <div data-bbox="351 1803 454 1881" style="border: 1px solid black; background-color: #ccc; padding: 2px; margin: 5px 0;">工夫</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一印象は大事であるので、教員が「これから防災について皆と考えるのがとても楽しみ！」と、わくわくしながら登場することが授業成功のコツ。 ・「生徒の防災に対する心のバリアを外そう」「防災教育を通じて生徒の成長を引き出そう」という心がまえで授業に臨んでいる。 	



記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	07(授業実践⑥)
タイトル	「防災選択肢」を増やそうー東京では即パンク!? 「災害が起きたら避難所へ」を見直そう
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年10月上旬
実践の所要時間	15分(授業の一部として, 3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	プリント, パワーポイント

<p>達成目標</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 20px auto;"> <p style="color: white; text-align: center;">育みたい 防災あたり前 感覚</p> </div>	<p>★育みたい『防災あたり前感覚』</p> <p>☑ 「地震が起きたら避難所に行く」のは、あくまでも災害時の選択肢の1つ。出来るだけたくさんの防災選択肢を考えておくこと・考えられることが大事。</p> <p>☑ 首都圏では、人口に対して圧倒的に避難所が足りない。避難所に入れない可能性がまず高い。入れたとしても、環境は劣悪になる可能性もある。運営するのは行政ではなく、自分たち。</p> <p>・「災害が起きたら避難所へ行く」を、“あたり前の常識”と思い込んでいる人が多い。2019年10月の台風19号でも、首都圏では台風に伴って開設された避難所がパンクするという事態が生じた。「行ってみて入れなくてびっくり」というケースが多発したのだ。</p>
---	---



	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は「福祉避難所（母子）」の協定を結んでいるため、福祉避難所を開設するためには、その場所を確保する必要がある。（また、私立学校は一般的には公的な避難所ではない。）その視点から考えると、命を守る快適な避難所を実現するためには、避難所の役割を住民が理解し、行くか行かないかを適切に判断することが必要になる。 ・「災害が起きたら避難所に」、そう人々が考えるようになる社会的背景があるはずだ。同時に、生徒に「災害が起きたら避難所に行きましょう」と教えることが、本当に災害に直面したときに生徒のためになるのか。この思いから、上記の「育みたい『防災あたり前感覚』」を設定した。 							
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>						
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>						
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>						
<p>実践内容・方法</p>	<p>パワーポイントとプリントを使って、以下の授業を展開した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; background-color: yellow; border-radius: 5px;">わくわく防災減災</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">いつか必ず来る その日のために…</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">さて、</p> <p style="text-align: center;">あなたは首都直下地震が発生したら、すぐに避難しますか？</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; color: red;">地震発生！</p> <p style="text-align: center;">自宅のライフライン(電気・ガス・水道)が全部止まった！</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; color: red;">あなたはどこへ？</p> <p style="text-align: center;">並べてみよう </p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; font-size: small;"> <tr> <td style="width: 50%;">A: 家の前に停めている自家用車 </td> <td style="width: 50%;">D: ライフラインの止まっている自宅 </td> </tr> <tr> <td>B: 家から最寄りの避難所 </td> <td>E: 被害が少なかった友だちの家 </td> </tr> <tr> <td>C: 家の近くにある公園の広場 </td> <td>F: 遠くに住んでいる親戚の家 </td> </tr> </table> </div> </div> <p>※()内は、プリントの箇所。</p> <p>教員「ライフラインが止まったら、どこで生活する可能性が高いとイメージしますか？カードを並べ替えてみましょう(A)。ついでに地図帳を見て、都道府県のデータも埋めてください(B)。」</p> <p>生徒 (プリントに書き込む)</p>		A: 家の前に停めている自家用車 	D: ライフラインの止まっている自宅 	B: 家から最寄りの避難所 	E: 被害が少なかった友だちの家 	C: 家の近くにある公園の広場 	F: 遠くに住んでいる親戚の家 
A: 家の前に停めている自家用車 	D: ライフラインの止まっている自宅 							
B: 家から最寄りの避難所 	E: 被害が少なかった友だちの家 							
C: 家の近くにある公園の広場 	F: 遠くに住んでいる親戚の家 							



教員「1 位に選んだものはどれですか？手を挙げてください。」

▶1 回目のときは、どのクラスも 8 割以上の生徒が何の迷いもなく、「家から最寄りの避難所」に手を挙げる。この時点で、生徒は「災害が起きたら避難所」と思い込んでいることが分かる。…⇒思い込んでいる理由については、後日、ワークショップの中で書き出してもらった。



【人口密度】 世田谷区
益城町 550人
熊本市 1900人 **1万5000人**

【写真】テント村や車中泊など、避難所外の生活の様子

教員「では、写真やデータを見ながら、考えていきましょう。熊本地震では、多くの人が車中泊など避難所以外で生活しました。世田谷区の人口密度と比較してみましょう。東京では、避難所に入れる人はどれくらいでしょうか？」
※この他、最大避難者数が「東日本大震災 38 万人」「熊本地震 18 万人」等に対して、「首都直下地震 720 万人」と予想されていることもグラフを用いて、説明する。

防災あるある



生徒「えっ…！そんなに…？」

教員「ここで、考えるのが嫌になってパニックしてしまう、というのが防災あるあるなんです。今日は、皆で想像を止めずに考えていきましょう！」「大切な事は、たくさんの『防災選択肢』を考えられることです。避難所に入れなかったらどうすればいいかも分からない、ではなく、他に選択肢を考えていけば、行動が変わってきますね。

大切なこと

たくさんの
防災選択肢
を考えられること

あなたはどこへ？

2 回目：並べてみよう

A: 家の前に停めている自家用車	D: ライフラインの止まっている自宅
B: 家から最寄りの避難所	E: 被害が少なかった友だちの家
C: 家の近くにある公園の広場	F: 遠くに住んでいる親戚の家

- ① 生活できる**可能性が高い**のはどこですか？
- ② できれば生活したい**安心な場所**はどこですか？

2 回目は、首都直下地震が発生したときに生活できる可能性や、できれば生活したい場所という基準でイメージしてもらおう。再度、手を挙げてもらおうと、意見は分散する。事前に様々な人と相談しておいたり、自分で備えておく大切さに気づく。



授業
プリント

A

いつか突然来るその日のために・・・

地震

Q. 地震が発生したら、あなたは家族と一緒に
どこで生活する予定（イメージ）ですか？



首都直下地震発生。あなたの自宅の建物は無事でしたが、ライフライン（電気・ガス・水道）が、全部止まっていて余震も続いているとします。次のカードを「災害時に生活する場所」として考えている優先順位に並べてみよう。

A:家の前に停めている自家用車 	D:ライフラインの止まっている自宅 
B:家から最寄りの避難所 	E:被害が少なかった友だちの家 
C:家の近くにある公園の広場 	F:遠くに住んでいる親戚の家 

優先順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
1 回目						
2 回目						

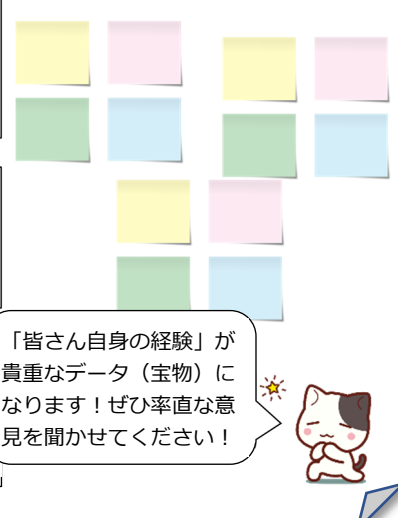
B

📖 地図帳 p.163 を見て、表を完成させよう

都道府県名	人口 単位に注意！	面積	人口密度 (人/km ²)
岩手県		15,275 km ²	
宮城県		7,282 km ²	
福島県		13,784 km ²	
熊本県		7,409 km ²	
東京都		km ²	
神奈川県		km ²	

東京では電気・ガス・水道がストップするような地震が起きた時、どんなことが起きると思いますか？ 想像してみよう！



▼ワークショップ用 ミッションシート (後日)							
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">なぜ、「災害が起きたら避難所に行くものだ」と思い込んでいる人が多いのでしょうか？</p> <p style="text-align: center;">しっかり自分のために備えておいた人は、実際の災害が近づいたり、発生した時にどんな「得」をするのでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">東京で、「モノ」も「気持ち」も備えていない人が避難所に殺到したら、どんなことが起こるのでしょうか？</p> <div style="float: right; text-align: center;">  <p>「皆さん自身の経験」が貴重なデータ（宝物）になります！ぜひ率直な意見を聞かせてください！</p> </div> </div>						
得られた成果	短時間で、生徒の意識を転換できた。台風 19 号の後に、首都圏で「避難所が足りないという新しい問題が発生した」「災害が起きたら避難所へという常識が通じないかも」というニュースを紹介したところ、「東京で避難所が足りない問題があるのは私たちは、すでに知っていたよね」という反応だった。						
どのくらい身につきましたか？	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>知識・技能</td> <td style="text-align: center;">かなり</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td style="text-align: center;">かなり</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力・人間性</td> <td style="text-align: center;">かなり</td> </tr> </table>	知識・技能	かなり	思考力・判断力・表現力	かなり	学びに向かう力・人間性	かなり
知識・技能	かなり						
思考力・判断力・表現力	かなり						
学びに向かう力・人間性	かなり						
課題・苦労・工夫	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">課題</div> <p>地域の特性に合わせた教育が必要であるという観点からは、人口が他の地域と比べて、遥かに多い首都圏の特性に合わせた防災教育を考えるべきで、そこには避難所が足りないということをしっかり含めるべきではないかと考える。</p>						



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	08 (授業実践⑦)
タイトル	「My 日常備蓄」を調べよう！考えよう！ (パソコン室の使い方・調べ方学習×防災)
実践担当者のお名前	京 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満 (プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019 年 9 月下旬
実践の所要時間	30 分 (授業の一部に組み込む)
実践の運営側で動いた人の人数	1 人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 パソコン室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パソコン, プリント

<p>達成目標</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 20px auto;"> <p style="color: white; text-align: center;">育みたい 防災あたり前 感覚</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン室の使い方・インターネットでの調べ学習を学ぶついでに、日常備蓄（ローリングストック）について学ぶ。防災に関連する調べ学習を通じて、パソコン室の使い方とインターネットの使い方を練習する。 ・ 調べ学習の課題（ミッション）には、生徒が楽しく調べられるもの、生徒の視点の転換を図るようなものを設定する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>★育みたい『防災あたり前感覚』</p> <p><input type="checkbox"/> 災害に備えて備蓄することは、特別なことや面倒なことではなく、日常生活の一部として、わくわく取り組むこと。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分の分は、自分に合わせて自分で備えるのがあたり前。それがいざというとき、一番自分のためになる！</p> </div>
---	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

(1) 授業の流れ

①中1は、パソコン室を使う経験が浅いので、パソコン使用のルール確認やパソコンの使い方の説明を行う。資料の調べ方など、今後の社会科の学習に必要な技能について説明・練習を行う。

②「通常の商品を防災の視点でPRしている」身近な具体例をいくつか紹介し、日常備蓄（ローリング・ストック）の考え方を説明する。

例) 今回の授業では、サンスターや無印良品の防災視点で作られたCMやHPを紹介した。

③生徒はインターネットを使って、身近な生活用品を検索して、具体的な商品名と選んだ理由をランキング形式でまとめる。

授業
プリント

地震に備えて特に**女性**におすすめしたい**日用品**ランキング

	具体的な商品名 (メーカー名)	おすすめの理由
1		
2		
3		
4		
5		

これまで「防災グッズ」と言えば、特別なグッズをわざわざ買う、というイメージがありました。そして、面倒くさい…と後回しにしがちの人が続出…(涙)

今、「日常備蓄（ローリング・ストック）」が注目されています！いざというときのために普段使っているものを少し多めに買って置くという方法です。皆さんにも「おなじみの商品」が、防災の視点からPRされています！



授業
プリント

- ・ に入る語句を変えることで、様々なバリエーションが可能。
- ・ 本校は女子校であることと、防災に女性の視点不足が指摘されてきたことから、「女性」向けランキングを設定している。
- ・ 「日用品」の部分には、具体的企業名を入れても効果的。本校では、被災地支援活動で繋がりのある日用品を製造している具体的企業名を入れて、その企業の HP を検索することもある。

(2) 別バージョン（女性をターゲットとした防災ボックスの提案）
別バージョンで次のような課題を宿題として出すこともある。
(今年度は、2月以降に実施予定)

もしものために今、できること自分目線&女性目線で備えよう！

「防災減災想像力」を働かせてビジネスアイデアを考えよう

設定：防災用品を扱う企業で働いているあなたは、社長からプロジェクトのリーダーに任命されました。プロジェクトは「女性がほしくなる防災グッズボックスをつくる」です。あなたは、スーパーや薬局などへ行き、女性向けの防災グッズになりそうなものを探ることになりました。ただ、「防災用品」は種類が限られていて、防災用品だけを詰めると値段も高くなってしまいます。そこで、防災用品にこだわらず、普段使っているものにも目を向けてみることにしました。

女性が避難生活※を送る上で必要だと思うものを詰め合わせた女性向けの防災グッズ（1週間分）を用意してください。また、その防災グッズはすてきなボックスに入れて販売します。そのデザインイメージと、「女性が買いたくなるようなネーミング」もつけてください。

※避難所で生活する可能性もありますが、収容人数は限られているので、水・電気・ガスが止まった自宅で生活を送る人も多くいます。



- ☑ 防災用品にこだわらず、広く商品を検討すること。(防災用品を入れても良いですが、身近にあるものの中にも備蓄品として準備しておくとも良いものたくさんあります。)
- ☑ インターネットで調べるのではなく、お店に行って考えてみること。

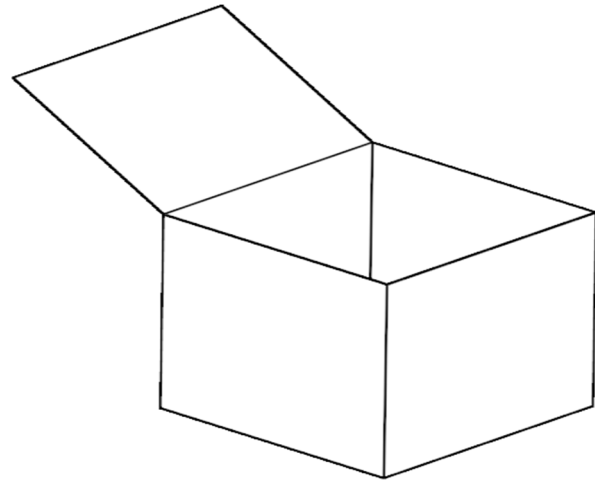


ボックスのデザイン

イラストを描いても、何か貼っても OK!!

ボックスの商品名 (ネーミング)

商品のアピールポイント



.....
.....
.....

具体的な商品名	作っている企業	いくつ入れたいか	およその価格 (合計)	なぜその商品を入れたいか・おすすめポイントなど
1				
2				
3				

得られた成果

チャレンジ！日常の学校生活に「防災要素」を入れる。

- ・生徒たちは時間いっぱい、夢中で調べる様子が見られた。教員からの指示がなくても、「季節はいつですか?」「水が節約できるものは…」など、様々な角度から考えて、ランキングを作成していた。
- ・防災ボックスに関しては、防災ボックスは好きなデザインができるため、生徒には「思ったより楽しかった」と好評であった。(未実施ではあるが、「美術の授業で実際にボックスを作る」という案が出たこともある。)

どのくらい身につきましたか?



知識・技能	かなり
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦勞・工夫

工夫

- ・パソコン室の使い方の練習を兼ねて、授業数に余裕のあるクラスで実施した。(2学期に未実施のクラスは3学期に実施予定)
- ・同じ作業をするにしても、楽しいミッションにすることで、防災行動のハードルを下げるきっかけとする。



記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	09(授業実践⑧)
タイトル	動画を効果的に生徒に見せる工夫 —鹿児島市の「避難行動周知動画」を活用した事例
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間(主に動画教材探し)
実践活動を実施した日時	①2019年10月上旬 ②2019年11月9日10時30分～10時40分
実践の所要時間	①5分(授業の一部として視聴) ②10分
実践の運営側で動いた人の人数	5人:各クラス担任3人,社会科教員2人
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	<p>【動画】鹿児島市役所危機管理局 危機管理課 「市民の避難行動の周知動画」(動画90秒×4本)</p> <p>https://www.city.kagoshima.lg.jp/kikikanri/bosai/2019hinannkoudoudouga.html</p> <p> 令和元年6月末からの大雨に係る災害対応において、内閣府のガイドラインに沿って本市で初めて警戒レベル4「避難勧告」「避難指示」を発令し、「全員避難」を呼び掛けましたが、全員が避難所へ行くことなのかななどの意味と受け取られ、一部の市民において混乱が生じた面もありました。このことを踏まえ、台風など風水害に対し、市民が取るべき避難行動について周知を図るため、動画を作成しましたので、ぜひご覧ください。(鹿児島市HPより引用)</p> <p> 【動画】避難指示発令に伴う、森市長から市民の皆様へのメッセージ(鹿児島市youtubeチャンネル) https://www.youtube.com/watch?v=0nxyHHuRpKg</p> <p>【資料】内閣府「警戒レベルに関するチラシ」</p>



<p>達成目標</p> <div data-bbox="193 573 427 734" style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; color: white; background-color: #0056b3;"> <p>育みたい 防災あたり前 感覚</p> </div>	<p>【目的・目標】</p> <p>①地震だけではなく、水害教育にも重点を置く。台風・大雨による水害被害が頻発する中で、警戒レベルと避難行動の関係について理解し、一人一人が適切な避難行動をとれるようになる。</p> <p>②適切な避難行動のため、「避難」の感覚を変える。</p> <div data-bbox="480 539 1434 1003" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>★育みたい『防災あたり前感覚』</p> <p>☑ 「避難＝どこかに行かなければ」という感覚から、「避難＝危険から逃れるための行動を考えて、行動すること」という感覚に変える。</p> <p>☑ 自宅が安全であれば、自宅に留まる「自宅避難」も避難行動であることを感覚で理解する。</p> <p>☑危険が近づいてから慌てて行動するのではなく、普段から、自分の住んでいる場所やいる場所の特性を知り、備えを進める意識を持たせる。</p> </div> <p>【背景・経緯】</p> <p>①「2019年7月に鹿児島市で全域に避難指示が出され、混乱が生じた」というニュースを聞いた。</p> <p>②東京の防災関係者から、「水害と地震の対応を同じに考えている住民が多いのではないか」という課題を聞いた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>これまで、首都直下地震に重点を置いた防災教育を行ってきたが、この2つの話を聞いたことがきっかけで、「水害」に着目した教育を行うことにした。(中1 社会科見学の事前学習)</p>	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>実践内容・方法</p>	<p>情報収集</p> <p>鹿児島市が避難指示を出したニュース動画を探していたところ、偶然、鹿児島市役所のHPの情報を見つけた。</p> <p>1 回目の視聴</p> <p>①「市民の避難行動の周知動画」を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MBC 南日本放送（男性のナレーション・暗めの音楽）と 	



KYT 鹿児島読売テレビ（女性のナレーション・明るい音楽）が対照的だったため、2本を比較しながら視聴した。

・同じ内容であっても、印象が違う2本の動画を見て、どちらがより内容が受け入れやすいかを比較した。

②「避難指示発令に伴う、森市長から市民の皆様へのメッセージ」を視聴する。

⇒もし、自分が当時、鹿児島でニュースを見ている市民だったら、どう考えて、どう行動したかを考えた。

⇒「災害情報をキャッチする訓練」になると思った。



市民への避難の呼びかけ
「命を守る行動を！」

授業
プリント

なぜ防災が怖い!?…防災は命を守るボランティア(*'▽')

今日の授業は、大雨が降りそうなときと大雨が降っているときにどうするかを一緒に「考えます」。教えるのではなく、考える。実際の災害が近づいているとき、どこにいて何をしているか分かりません。いつも先生が側にいるわけではありません。皆さん一人一人が主役です！

授業
プリント

あなたならどうする？

「命を守る最高の行動」を考えよう！

▷ 右のメールは、2019年9月9日に目黒星美の先生の携帯に届いたメールです。あなたはこのとき何をしていましたか？

▷ 「大雨が降るとき」あなたにとって、「いると安全だと思う場所」を5か所挙げてみよう。

緊急速報メール



◀ メール ▶

横浜市【警戒レベル4】避難勧告

2019/09/09 4:46

9月9日04時45分、土砂災害警戒情報の発表に伴い、横浜市の一部地域に【警戒レベル4】避難勧告を発令とすべき行動：対象区域にお住いの方は避難してください。





<p>授業 プリント</p> <p>授業 プリント</p>	<p>2 回目の視聴</p> <p>「ぼうさいこくたい 2019」の会場で、鹿児島市危機管理課のブースがあり、職員の方に動画活用のご報告をした。</p> <p>このことがきっかけで、「鹿児島市の担当者の方に感想を送ろう」という企画にして、再度、4つの動画を見比べて、感想を書いた。</p> <p>動画の感想を送ろう！</p> <p>①鹿児島市の避難行動周知の動画を見て、感想を書きましょう。 (理解しやすかったか、周囲の人におススメしたいか、どこが分かりにくかったか、など自由に書いてください。)</p> <p>②一番、良いと思った動画(=今後、大雨が降ることが分かったときに、思い出して自分の避難行動につながりそうだった動画)に○をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="539 1019 1340 1153"><tr><td>動画 1</td></tr><tr><td>動画 2</td></tr></table> <p>③授業では、台風 19 号が来る前に動画を見ました。動画が役立った経験があればそれも教えてください。その他、自由に意見を書いてください。</p>	動画 1	動画 2
動画 1			
動画 2			
<p>得られた成果</p>	<p>チャレンジ！「避難」の意味を正しく理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・最近、起きた災害のニュース、特に、その台風等の災害が発生する前のニュースを用いることで、「災害情報をキャッチして、自分のこととして考えて行動することをイメージする訓練」ができた。・動画を見るタイミングと台風 19 号が来るタイミングが合ったので、実際に、学んだことを活かすことができた。 <p>▼上記③に対する生徒の回答</p> <p>どこかに行くことが避難ではなくて、難から逃れることが避難だということに気がつけた。／警戒レベルについて分かっていたから、メールが来た時すぐに分かった。／情報に注意することができた。</p>		



	<p>自宅にいるのも、避難していることでもあった。／避難の判断をするときに役立った。／台風が来る前に何もしていなかったけれど、動画を見てから色々と準備しようと思えた。／台風が来そうな前日にベランダの物を片づけたり、食料を買い込んだりした。／怖い感じだったので、危機感を持つことができました。</p>	
	<p>・動画を「見る意味」を増やしたことで、普通に流した時よりも、真剣に見て、その分、内容の理解が深まった。比較して、感想を書くということミッションにしたことで、類似の動画を繰り返し見る理由付けにもなった。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	<p>・生徒に「自分だったらどうするか？」を、リアリティを持って考えてもらうために、近い過去に起きた災害のニュース動画（特に、その災害が起きる前の呼びかけ）を使用している。本プランにおいては、市民の気持ちになって、鹿児島市長の会見を視聴した。</p> <p>・自分が住んでいる地域に危険が迫っていても、なかなか危機感を持って行動が起こせない課題に対する解決策になると考える。</p> <p>・類似の活動として、別の授業では、以下のように台風 15 号が来る前の気象庁の呼びかけのニュースを視聴した。</p>	
工夫	<p>あなたはあの日、何を考えた？</p> <p>☞このニュースを見て、あなたはどんなことを考えましたか？また、もしこの台風の影響で自分が住んでいる地域が千葉のような被害を受けると分かっていたら、どんな行動をとりましたか？</p>	




★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	鹿児島市役所 危機管理課 危機管理係
関係者の説明	「市民の避難行動の周知動画」の制作及びテレビ放送（実際の動画制作は、鹿児島のテレビ局 4 社が担当）と HP へのアップを行い、市民への避難行動の周知に努めている。
関係者の連絡先	099-224-1111（代表）



記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	10(授業実践⑨)
タイトル	台風・大雨 命を救う「防災あたり前感覚」を磨く 「避難」という言葉への挑戦! 避難の誤解を感覚で解く —台風19号のとき、あなたはどんな避難をしましたか?
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	①授業 2019年10月上旬 ②宿題 10月11日配布
実践の所要時間	①10分(授業の一部として, 3クラスで実施) ②各自
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	①約70人(中1) ②約140人(中1・3)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	授業用パワーポイント・授業用プリント・宿題用プリント・警戒レベルと避難行動の資料(図)

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>①命を守るために危険から逃れる「避難(evacuation)」の意味を感覚で理解する。</p> <p>②台風19号に直面し、一人一人が考えて行動を選択する。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>①「避難=避難所に行くこと」「避難=どこかに行かなければ!」と思っ て入っている人が多い。また、防災用語に「避難」という言葉が多 用されており、紛らわし過ぎる現状がある。</p> <p>②私立学校である本校は、指定避難所ではなく、かつ福祉避難所の協 定を結び、その場所を確保しなければならない立場である。その視 点から社会を見ると、「学校=避難所」という思い込みが広がってい ることに危機感と疑問を抱いた。</p>
------	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり			
	思考力・判断力・表現力	大いに			
	学びに向かう力・人間性	かなり			
実践内容・方法	授業 ※【実践番号 07】を同じ時間内に実施した。 テーマ：未来の被災者として「命のための想像力」を伸ばそう(^^)/ ①スライドを使いながら、生徒に以下のメッセージを伝えた。 教員 「今日は最初に『台風』や『水害』について考えます。ちょうど、社会科見学に向けての授業をしている期間に、私たちは台風 19 号と向き合っています。あなた自身と大切な人たちの『命を守る最高の行動』を考えましょう」				
	<table border="1"><tr><td>私たちは「未来の被災者」 </td><td>防災は 未来の命を守るボランティア</td></tr><tr><td>これから一人一人が 台風による被害に 直面します。</td><td>災害では、 助かる人の方が 多くいます。</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">・「防災」「災害」とひとまとめにするのではなく、災害の種類ごとに整理することが必要という気づきから、今年度より、地震の学習の前に台風・豪雨等による水害の学習を入れた。・災害ごとの被害や対応を考える思考をつくるために、最初に「台風や水害について学ぶ」ことを宣言・強調する。・今年度の工夫として、「希望的側面を強調する」という目標があるため、「災害では助かる人の方が多くいる」という点も強調する。 ②「避難」の意味を考えよう <ul style="list-style-type: none">・「避難」は読んで字のごとく、「難を避ける」つまり、災害の危険か	私たちは「未来の被災者」 	防災は 未来の命を守るボランティア	これから一人一人が 台風による被害に 直面します。	災害では、 助かる人の方が 多くいます。
私たちは「未来の被災者」 	防災は 未来の命を守るボランティア				
これから一人一人が 台風による被害に 直面します。	災害では、 助かる人の方が 多くいます。				



	<p>ら逃げる・災害の危険を避けることを指すと、丁寧に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none">・避難の意味の説明としては、「危険を避けて安全な場所にいること」、「自宅が安全と判断して自宅に留まるのも避難」、「面倒だから自宅に留まるという判断はダメ」など、試行錯誤、表現を変えながら繰り返し説明した。 <p>宿題</p> <p>台風が接近するにつれて心配になり、急遽、台風 19 号が来る前日の 6 時間目にプリント（次ページ）を作成して、帰りの HR で中 1 と中 3 に配布した。週明けの授業で、プリントを回収した。</p> <p>テスト</p> <p>避難の感覚を変えて、それをあたり前にするために、テスト問題を作成した。</p> <p>【問題】 台風 19 号では、私たちの住む東京や神奈川も大きな被害を受けました。目黒星美では、台風 19 号の後に全員の無事が確認できたので、私たちは台風 19 号の際に、「一人一人が適切に全員避難した」と言えます。では、あなたはどのような避難をしましたか。必ず「避難」という言葉を用いて、報告してください。</p> <ul style="list-style-type: none">・自宅避難した生徒もいれば、自宅以外に避難した生徒もいたが、概ね、避難の意味を理解して、自分のとった行動を報告していた。・「私は自宅が安全だったので、避難しませんでした。」という解答については、減点した。（設問で「全員避難したと言えます」と前置きしているので、問いに対応していない解答という評価。
<p>得られた成果</p>	<p>チャレンジ！避難の意味を感覚で理解できる教材と実践の提案</p> <p>「授業・宿題・テスト」と「台風 19 号の経験」を通じて、ある程度、生徒の避難に対する感覚を変えて、理解を深められたと考えている。次ページの宿題プリントは、臨時で 30 分程度で作成したので十分ではないが、生徒が自らの行動を考える教材として、比較的意味あるものになったと考えている。下校時に、宿題プリントを基に避難行動ついて、話し合っていた生徒がいたと他学年の生徒から報告があった。</p>





宿題
プリント



冷静に考えよう

命を守る最高の行動を

私が率先して選択します

台風
大雨

台風 19 号が来ます。この週末、以下のシートに記入して「命を守る最高の行動」をとりましよう。(次の授業で回収します。)

[Q1] 皆さんにとって「命を守る最高の行動」は何ですか？／何でしたか？

[Q2] 台風 19 号に備えて、事前にどのような準備をしましたか？また、備えが足りなかったことは何ですか？

[Q3] 「避難」とは、必ずしも「避難所（近くの公立学校）に行くこと」ではありません。「あなたの命を守れる場所を考えてその場所にいる」ということです。また、夏休みに取り組んだ、「東京防災マイタイムライン」では多くの人が避難する場所として「近くの小学校に行く」と挙げていましたが、人口の多い東京では1か所に人が集中してパンクすることも考えられます。あなたが、大型台風が来たときに安全を確保できる場所を5か所以上、考えておきましょう。「命を守れる選択肢」を考えておきましょう。

[Q4] 今回は、台風が目前に迫っていますが、首都直下地震をはじめ様々な災害が起こる可能性があります。「どの災害でも助かる人の方が多くいること」、「備えれば助かる人が増えること」を忘れずに、一人一人が考えて行動しましょう。自分に足りていない備えを考えて、近いうちに実行できそうなことを3つ挙げましょう。またその他、報告したいことなど自由に書いてください。

▽配布したプリントには、警戒レベルと避難行動の図（政府オンラインより）を掲載

皆さんへ 「命を守る最高の行動」は、目黒星美の合言葉です。普段でも、危険が迫っているときや発生するときでもいつでも心に留めておきましょう。

警戒レベル5にある「命を守るための最善の行動」は、いよいよ災害が発生していて安全確保が難しい場合でもその場でできる最善を尽くすということです。「警戒レベル5」の段階が来る前に「命を守る最高の行動」をとっておくことが、私たちの約束です。

西日本豪雨をはじめ、危険が迫っている場所から避難するように呼びかけられても「大丈夫」と行動を起こさなかった事例が多くあります。一方で、今年の7月に全域に避難指示の出した鹿児島市では「どこに行けばいいのか」と混乱して一部の避難所に大勢が集まるということも発生しました。できるだけたくさんの「命を守る選択肢」を考えることが大切です。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員こそ、長年の経験から「避難＝どこかに行くこと」という感覚がある。生徒に教えながら、同時に教員自身の感覚の変える努力を重ねた。ひたすら「自分自身に言い聞かせる」という手段で、感覚を変えていった。違和感が無くなるまで2週間くらいかかった。 ・ 教員自身が、「避難＝どこかに行くこと」と思っていたので、昨年度より、行事名を「避難訓練」から「防災訓練」に変更していた。来年度は、この行事名をまず「避難訓練」に戻して、避難の感覚をしっかりと育てていきたい。 ・ 正直、「避難」という言葉が多用されていること自体が、課題であり、「避難」を使った用語の言葉の違いを説明している時間があるなら、他の防災教育に時間を使いたい。とは言え、現状に対応するならば、用語を分かりやすく解説する「用語集づくり」をミッションにすると国語力がアップするかもしれない。 ・ 本校で「命を守る^{●●}最高の行動」というフレーズを数年前から使い、今年度から校内で大きく打ち出したところ、「命を守る^{●●}最善の行動」とやや被ってしまった。意味は違っているので、生徒の混乱を招くのではなく、繰り返し伝えることで、感覚で理解してもらえるように、工夫していきたい。 ・ 宿題プリントは臨時で作成したので、中1と中3に配布したが、他の学年にも配布すれば良かった。今年度からの取り組みであるので、来年度、全校に「避難教育」を広げていきたい。 	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	生徒の皆さん
伝えたい内容	普段は、「命を守る最高の行動」をいつも心に留めて、選択してください。いざというときは、「命を守る最善の行動」をとること。でも、「命を守る最善の行動」をとる状況になる前に、「命を守る最高の行動」をとっておきましょう。



記入日	2019年12月15日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	11(授業実践⑩)
タイトル	普段の授業で防災力をつけよう!—学力の三要素を育む「防災参画型授業」の提案(中3公民的分野内において,地域・行政と連携し,社会参画までを実現する防災教育)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	5000円未満(プリント印刷・学年分の紙ファイル)
実践の準備にかかった時間	数日(主に複数の授業とワークショップ作成)
実践活動を実施した日時	2019年4月下旬~6月下旬
実践の所要時間	50分授業×8コマ プラン全体では,50分授業×17コマ(3クラス)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各教室
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	プリント,パワーポイント,関連する動画,プリント用ファイル(生徒1人1冊)

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>本実践は,「防災教育をしたくても決められたカリキュラムがあり,時間がとれない」という教員の声に応え,教科書の単元に沿いながら,通常の社会科の学習を深める教材として,「防災」を活用した授業を提案するものである。同時に,実社会と乖離しがちな社会科の学習を実感を持って学ばせたり,社会に還元したりする授業づくりを目指す。</p> <p>【背景・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうしても防災教育をしたい」と考えた実践担当者が,「自分の担当する授業を,防災の視点で展開してみよう!」と思いついた。 ・中3は中1の社会科見学で防災に関するプレゼンテーションを経験しているので,その経験を土台にステップアップする。
------	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに														
	思考力・判断力・表現力	かなり														
	学びに向かう力・人間性	大いに														
実践内容・方法	<p>(1) 「わくわく防災減災」プラン概要</p> <p>今年で3年目の取り組み。本報告では、プランの大きな流れを紹介し、別途、以下の通り、個別に実践の詳細を報告する形をとる。</p> <p>📖 本校使用教科書：東京書籍『新しい社会 公民』</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業時数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「防災化」授業</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>②災害対策課職員による講演会 実践番号【31】</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>③プレゼンテーション準備 【12】</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>④【国語】プレゼンテーション講座 【11】</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>⑤プレゼンテーション（クラス内及び地域） 【12】</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>プラン全体時間数</td> <td>計 17</td> </tr> </tbody> </table>			授業時数	①「防災化」授業	7	②災害対策課職員による講演会 実践番号【31】	1	③プレゼンテーション準備 【12】	6	④【国語】プレゼンテーション講座 【11】	1	⑤プレゼンテーション（クラス内及び地域） 【12】	2	プラン全体時間数	計 17
		授業時数														
①「防災化」授業	7															
②災害対策課職員による講演会 実践番号【31】	1															
③プレゼンテーション準備 【12】	6															
④【国語】プレゼンテーション講座 【11】	1															
⑤プレゼンテーション（クラス内及び地域） 【12】	2															
プラン全体時間数	計 17															
<p>★加えて、全体の流れは、以下の2点の発展学習と合致している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①「公民にチャレンジ 私たちの政治参加」(教科書 pp.110~111)</p> <table border="1"> <tr> <td>問題把握</td> <td>(地域を振り返り、課題・解決の取り組みを調べる)</td> </tr> <tr> <td>→ 問題分析</td> <td>(行政職員の話聞く、文献・ネット・統計調査)</td> </tr> <tr> <td>→ 意思決定</td> <td>(自分たちにできることを考え、考えを決定する)</td> </tr> <tr> <td>→ 提案・参加</td> <td>(実際に政治参加する = ①行政などに提案する・ ②実際にまちづくりに参加する)</td> </tr> </table> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>②「深めよう 東日本大震災からの復興と防災」(pp.112~113)</p> <p>トライ ①防災・減災についての計画・取り組み・新たな課題を調べ、まとめる ②防災減災のために自分たちにできることはないか、グループで話し合う</p> </div> <p>(2) 「防災化」授業の展開</p> <p>社会科（公民的分野）の単元を防災の視点から学んだ。</p>		問題把握	(地域を振り返り、課題・解決の取り組みを調べる)	→ 問題分析	(行政職員の話聞く、文献・ネット・統計調査)	→ 意思決定	(自分たちにできることを考え、考えを決定する)	→ 提案・参加	(実際に政治参加する = ①行政などに提案する・ ②実際にまちづくりに参加する)							
問題把握	(地域を振り返り、課題・解決の取り組みを調べる)															
→ 問題分析	(行政職員の話聞く、文献・ネット・統計調査)															
→ 意思決定	(自分たちにできることを考え、考えを決定する)															
→ 提案・参加	(実際に政治参加する = ①行政などに提案する・ ②実際にまちづくりに参加する)															



単元	防災視点からの授業内容・授業展開例
情報化 効率と公正	災害時のデマと情報モラルから災害時に誤解を招かない情報発信を考える。DISSANA など災害時の有効な情報収集方法を学び、情報リテラシーを身につける。支援物資のミスマッチを引き起こさない支援を議論する。
効率と公正▲	限られた食料の分配方法を議論する。実際に母子避難所として利用する予定の建物見取り図を使って「母子避難所の部屋割り」を考える。
少子高齢化	世田谷区の人口構成（乳幼児と妊産婦）を知る。地域の抱える高齢化の課題を知る。災害時の妊産婦の問題や体験談に関心を持つ。
グローバル化 多文化共生 異文化理解	災害時に外国人が直面する問題を資料を使って検討する。災害弱者への配慮と、自分自身も当事者（災害弱者）になる可能性があることに気づく。
決まり(ルール) を作る・見直す	区と本校の間で結ばれている「福祉避難所(母子)」の協定書を基に契約(書)について学ぶ。
人権	防災における人権や災害時の人権について考える。防災における女性の視点の欠如・不足の問題、災害弱者など。
メディア リテラシー	マスコミは、被害予想を大きく取り上げるが、記事を逆の視点から読むと違って見えてくる。
地方自治・行政	区役所の防災対策について知る。また区役所職員の防災講演会の中で、身近な行政の仕事内容や、仕事の魅力についてのお話も入れていただく。
需要と供給▲	需要と供給を学ぶ際に、携帯トイレの価格を具体例として取り上げる

※「▲」は、今年度の1学期（＝「わくわく防災減災」実施）の時点では、未実施または今年度は省略するもの。参考のために掲載。

※これ以外の単元を学習する際も、防災を意識して学習を進めることを心がける。



(3) 「防災化」授業の発展的展開

社会科（公民的分野）の単元として防災教育を行った場合、「防災」よりも「公民」の目標を達成することに重点が置かれる。そのため、本実践では「防災化」授業と連動して、防災講演会及び行政職員や地域の防災リーダーへの提案を行った。さらに、実際の防災イベントで生徒のアイデアを具現化した。これらの活動を通じて、社会参画や防災教育としての質を高める工夫をした。

「公民にチャレンジ 私たちの政治参加」（教科書 pp.110～111）

問題把握（地域を振り返り，課題・解決の取り組みを調べる）

社会科（公民）における「防災化」授業（4月下旬～5月下旬）



問題分析（行政職員の話聞く，文献・ネット・統計調査）



災害対策課講演会（5/14）

講師：世田谷区災害対策課職員

「熊本地震の避難所の状況と

世田谷区の災害対策について」

ゲスト（授業見学）：（公財）東京都公園協会

砧公園サービスセンター職員 1 名



意思決定（自分たちにできることを考え，考えを決定する）



「わくわくミッション！」（6コマ）

「ミッション」について，チームで話し合い，3分間のプレゼンテーションにまとめる。生徒のやる気を上げるため，くじ引きでチームを決めた。



提案・参加（実際に政治参加する＝①行政などに提案する・

②実際にまちづくりに参加する）

①プレゼンテーション（クラス内→全体）

①クラスでプレゼンテーションを行い，代表チームを選んだ。

②3クラス合同授業に，防災公園職員・災害対策課の職員・母子避難



	<p>所を担当する部署の職員・地域の防災リーダーを招いて、代表の6チームから地域プレゼンテーションを行った。(6/25)</p> <p>②12月に実施される「砦公園防災フェスタ」で生徒のアイデアを具現化したり、活用したりする。⇒実践番号【00】</p>	
得られた成果	<p>チャレンジ！通常の授業内で防災教育と社会参画を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが生き生きと主体的に取り組んでいた。 ・ 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
<p>課題・苦勞・工夫</p> <p>工夫 苦勞</p> <p>課題</p> <p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、同じ内容を繰り返すのではなく、生徒の取り組みが、年を追うごとに積み重ねになるように、内容を設定している。ただ、前の年度までのアイデアの共有が生徒に十分できていないので、これまでの成果を目に見える形でまとめることが、今後の課題である。 ・来年度は、10月の台風19号で地域、特に避難所で起きた事例を基にした授業を行いたい。そのために、現在、情報収集を始めている。生徒の提案で活動や繋がりが広がった、「ペットと防災」も取り上げたいと考えている。 	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	教員（特に、防災教育になかなか取り組めないと思っている先生）
伝えたい内容	<p>普段の授業を進めつつ、生徒が生き生きと話し合い、そして何より生徒自身の防災意識も上がり、活用した知識も定着する。「防災化」授業はお薦めです。また、学校外の大人に、生徒のアイデアを真剣に、しかも「良いアイデアは実際に取り入れよう」という姿勢で聞いてもらうのに「防災」ほど、最適なテーマはありません。防災教育は、生徒を成長させるチャンスです。「限られた時間数で防災教育ができない」「防災の知識が無いから防災教育ができない」と思わず、「わくわく防災視点」で見ると、たくさんのアイデアが浮かびます。希望を持って、防災と向き合うと不思議とアイデアが湧いてきます。わくわく取り組んでいきましょう！</p>



記入日	2019年12月10日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	12(授業実践⑩)
タイトル	【国語×社会×防災】「これで誰でもプレゼン上手！」 (中3国語・アルファ米など防災用品を, 具体例として用いたプレゼンテーション講座)
実践担当者のお名前	浅見(国語科)・京(社会科)
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月30日～6月3日
実践の所要時間	授業1コマ50分(×3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	2人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	中学3年生 各普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	授業用パワーポイント, アルファ米

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>プレゼンテーション力と表現力を磨く国語の授業において, 防災用品や防災に関する用語を具体例として用いることで, 教科としての学習目標を達成しながら, ついでに防災への関心と知識もつけることを目指した。公民の「地域プレゼンテーション」【実践番号 11】に向けて, 同時期に授業を実施した。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>社会の授業での「防災化」授業の取り組みでは, 学校外へ向けてのプレゼンテーションに取り組んでいるが, プレゼン指導に十分時間が取れない課題があった。そこで, 同じくプレゼン力を高めたいと考える国語科の教員と協力して, 国語の授業内で本プランを実施することとなった。</p>
------	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	<p>(1) 授業準備</p> <p>①プレゼンテーション指導力の高い国語の教員が、効果的なパワーポイントのスライドの作り方と、情報のまとめ方について授業を作成した。その際、具体的な題材として、アルファ米等の防災用品を伝えるように社会科兼防災係の教員からアドバイスをを行った。</p> <p>②良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションの見本になるように、リハーサルを行った。(特に、防災に関心のある教員のため、「防災についてつまらなそうにプレゼンする練習」を重ねた。)</p> <p>(2) 授業実践</p>
---------	---



①授業の最初で生徒をつかむ

効果的なプレゼンテーションについて学ぶ国語の授業に、社会科の教員がTTとして入った。

生徒にとっては、なかなか見られない光景なので、面白そうに授業に参加していた。教員は、楽しいことが始まるぞ、と予感させるように雰囲気作りを心がける。

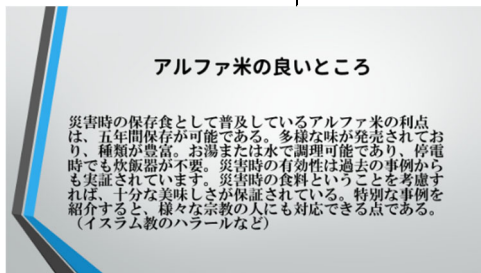


②スライドの良い例・悪い例×防災

良くないスライド例：

▲文字情報の多いスライド

社会科の教員が、スライドに書かれたアルファ米についての情報を淡々と読み上げる。



▲写真とアニメーションが多いスライド

アルファ米の写真が、しつこいアニメーションと共に次々に登場するスライドを見せる。



	<p>良いスライドの例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大事なポイントを抽出したスライド <p>国語科の教員から情報を絞ってスライドに書くと効果的であることを説明する。具体例として、アルファ米についての説明のスライドをしめす。</p> <p>他にもいくつか事例を挙げたり、プレゼンテーションのコツを説明したりする。</p>						
	<p>③授業の締め</p> <p>授業の最後に、社会科教員がアルファ米の実物を見せて、楽しそうに良いプレゼンテーションの見本を見せる。</p>						
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の授業で、地域プレゼンテーションの準備を始める前に、本プランを実施したので、その後のプレゼンづくりに大いに参考になっていた。 ・ 特に中学生は、パワーポイント作りはまだ慣れていないので、情報を詰め込んだり、アニメーションを多用したスライドを作りがちであるが、予め学習していたことで、効果的なスライド作りができていた。 ・ アルファ米について、初めて知ったという生徒もいて、関心を持たせることができた。また、「選べるギフトでアルファ米セットを注文するように親を説得した」という報告も生徒から入った。 						
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>かなり</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>大いに</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力・人間性</td> <td>かなり</td> </tr> </table>	知識・技能	かなり	思考力・判断力・表現力	大いに	学びに向かう力・人間性	かなり
知識・技能	かなり						
思考力・判断力・表現力	大いに						
学びに向かう力・人間性	かなり						
<p>課題・苦勞・工夫</p> <p style="text-align: center;">課題</p>	<p>授業準備に時間がかかり、予定していたプリントの作成まで至らなかった。当日は、プリントが無くても十分授業はできたが、できれば、学習内容を残せるプリントがあると良い。</p>						



記入日	2019年1月14日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	13(授業実践⑫)
タイトル	地域プレゼンテーション「～未来の命のために、今できる行動を広げよう!～未来の子どもたちの命を救うために、住民の意識と行動を変えるアイデアを考えて実現しよう!」(行政・地域と連携した防災教育)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	①準備:2019年5月半ば～6月25日 ②当日:6月25日10時40分～11時30分
実践の所要時間	準備:50分×6コマ プレゼン:50分×2コマ (3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人(中3)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 マリアホール
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	プリント, プライドに縛られずに生徒に対して「防災について課題を抱えて困っている」「だから皆のアイデアと行動が必要なんだ」と言える大人

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>12月に開催される地域の防災イベントで、地域住民の防災意識と行動を変える防災コーナーを考えて、行政職員や地域住民を招いてプレゼンテーションし、アイデアの実現を目指す。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>生徒に教えたことは、すべて生徒に教えてもらおう!</p> <p>本校の防災教育の特色の1つが、防災課題のミッション化である。「生徒に教えたこと・学んでほしいことを、敢えて生徒に『ミッショ</p>
------	--



	ン』として与えて、大人が教えてもらう」ことが、生徒の防災に対する主体的な態度を育て、防災に対する想像力を伸ばし、成長に繋がることから、教員がその方針を持ち、年間を通じて、実践に取り組む。女子中学生という立場からの提案だけではなく、生徒を様々な立場に立たせて考えさせることで、多角的な視点から捉える力を養う。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>3~4人のチームを作る。ミッションを提示し、チームごとに話し合いと発表用パワーポイントスライドの作成を行う。</p> <p>生徒が考えたくなるミッションを設定する。簡単過ぎても、難し過ぎても話し合いは活性化しない。また「どうせ大人は知っている」という印象を持つと、さらに活性化しない。「生徒のアイデアが本当に必要」と伝わるミッションの設定が、大事。今年度は、「教員の失敗」を前面に出した、実話を基にしたミッションを設定した。</p> <p>▼今年度のミッション-----</p> <p>◇Wakuwaku MISSION</p> <p>皆さんは、今年の12月に砧公園（都立の防災公園）で行なわれる防災訓練（防災フェスタ）で、オリジナルの防災コーナーを出展することになりました。砧公園を管理している砧公園サービスセンター（SC）や地域の防災リーダーの人たちも皆さんの企画・アイデアにとっても!!期待しています。</p> <p>昨年、先生が単独で参加した（生徒の皆さんはテスト期間でした…）訓練では、防災意識の低い赤ちゃん連れのお母さんがやってきて「全然準備していません！」と言っていたり、そもそも先生が出した防災コーナーの展示がしょぼくて、先生はその後、落ち込みました。また「災害時は、砧公園に行けば何とかなる」と誤解している住民も多くいます。</p>	



全然、備えていません！
私たちの避難所はこの公園
なんですよ～。地震が起き
たら、子どもたちと頑張っ
て、ここで生活します。

通りすがりの
親子



※実話です。
※公園は広域避難場所であって、
避難所ではありません!!!



とにかく展示が
しょぼかった。

せっかくのチャンス
だったのに・・・



そこで、皆さんの防災コーナーに立ち寄った人が、「よし、自分で備えよう！」と前向きに動きたくなる工夫を考えて、アイデアをプレゼンテーションしてください。お客さんとしては、たまたま公園に遊びに来ていたファミリー層（小さな子どもたちのいる親子）が多く来ます。その他、スポーツの練習に来ていた小学生や散歩に来ていたお年寄りもやって来ます。

多くの人は、防災は大事だと思っていても動けていなかったり、防災に面倒といったマイナスイメージを持っていたりして、なかなか取り組もうとしません。みなさんの防災コーナーに来た人たちが、防災に「前向きに取り組もう！」と思って行動してくれるようなアイデアを考えて実現させよう！-----

▼「わくわくミッション アイデアシート」

★オリジナル防災コーナーのキャッチフレーズ

防災そのもののイメージアップ、これも大事です。

★防災コーナーのとっても具体的なアイデア

プレゼンを聞いた人に、「これならすぐ実現できる！やってみよう！」と思ってもらえるように、具体的なアイデアを書いてください。

★行動変容目標

皆さんの考えた防災ブースに来た人たちが、帰ってからどのような行動をとってくれると「成功した！」といえるでしょうか。目標とする行動や想定できる行動の変化を書いてみよう。



代表チームの題名


- 「命を守る 4,000 円～これであなたも生き残れます～」
- 「作って学ぼうわくわくスライム」(防災クイズに正解する毎に材料をもらえる)
- 「非常用リュック重くない? / 本当に避難所は安心できる?」
- 「防災カフェ」
- 「一千万人で手を繋ごう 誰かを助けられる存在に!」
- 「WELCOME TO 防災 LAND」
- 「備蓄しないとやばたにえん / リアル参勤交代」

▼プレゼンテーション用スライド


私たちが解決すべき問題は、「公園に来れば助かる」と思い込んでいる区民の意識を変えること。

**私たちの企画で
防災を身近なものに!**

防災カフェ!!



- ・コースター
⇒飲み物を頼むとついてくるコースターに防災についての豆知識が書いてある。
- ・非常食(アルファ米、カンパンなど...)
⇒作り方などを説明する。




映える非常食教室

大変です!!
↓
非常食はファストパス

- ・こんなに並んでも、もらえるのはほんの少し...
- ・必ずもらえるかわからない
- ・自分の口に合わないかもしれない...
- ・アレルギーがあったら? ...でも!

非常食があれば、並ばず自分の好みに合ったものを食べることができる!
ということをお客さんに伝えるために...!

ファミリー層に防災意識を高めてもらうには...

震災の怖さを伝える

↓

震災に遭った時の対策・解決策を教え、体験してもらう

避難所で確保できる スペースを実際に作る

3 × 3 (cm)

東京で皆が避難所に行こうとすると大変なことに、消しゴムくらいのスペースしかないかも...!?あなたは消しゴムの上で生活できますか?



得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・どのチームも積極的に話し合い，良いプレゼンテーションをつくり上げていた。面白いアイデアがたくさんあり，6月25日に世田谷区役所職員，砧公園職員，地域の防災リーダーの計7名をお招きして，プレゼンテーションを行い，高く評価していただいた。 ・12月に開催された砧公園防災フェスタで，実際にいくつかのアイデアを実現させた。今後もチャンスを見つけて，順次アイデアの実現を図りたいと考えている。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<p>○「先生，困っている」の一言が，素晴らしい防災教育の教材に</p> <p>ミッション化の手法は，偶然の気付きから生まれた。2015年9月に学外から「マンホールトイレ」についての実践依頼が来た。「1か月半の期間内にマンホールトイレのアイデアを生徒から引き出し，実際に組み立てて，11月半ばのシンポジウムで1時間発表する」というものであった。しかし，依頼時点で教員はマンホールトイレについて何も知らない状況であり，ピンチに陥った。そこで，切羽詰まって，「学校外から生徒のアイデアを聞きたいと依頼が来た」「先生は，アイデアが浮かばず途方に暮れている」という状況そのものを授業化し，生徒に正直に伝えたところ，生徒が目を輝かせ，アイデアが溢れ出した。この経験から，ミッション化の手法を確立した。現場での防災教育の実践が行われにくい原因として，「教員の知識・技能不足」が挙げられるが，それを逆手にとって，「生徒と一緒に考える防災教育」を推進していきたい。</p>	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災教育に取り組む先生方
伝えたい内容	<p>防災教育の主役は生徒です。そして，「防災で困っている大人」は，生徒のアイデアを刺激する最高の教材です。教える防災教育から，生徒から引き出す・生徒が考える防災教育へ。「防災について詳しくない」と遠慮せずに取り組んでみませんか。</p>



記入日	2019年12月18日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	14(授業実践⑬)	
タイトル	情報の宝★探しー首都直下地震の想定から「希望の情報」を読み取ろう(公民「メディアリテラシー」「行政」)	
実践担当者のお名前	京(社会科)	
実践にかかった金額	1000円未満(授業プリント印刷)	
実践の準備にかかった時間	数十分	
実践活動を実施した日時	2019年10月上旬	
実践の所要時間	15分(授業の一部で実施)×3クラス	
実践の運営側で動いた人の人数	1人	
防災教育の対象者の属性	中学生	
防災教育の対象者の人数	約70人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	<p>① 中央防災会議防災対策推進検討会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループ 「首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告)」</p> <p>② 首都直下地震の被害想定対策のポイント (※授業では資料として pp.4,9,10,13,14,17 を使用)</p> <p>③ 2013年12月19日公表 中央防災会議「首都直下地震の被害想定と対策について」の解説-速報版(東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 ビジネスリスク事業部)</p> <p>④ 「①」の内容について報じた新聞記事</p>	

達成目標	防災化授業の一環として、メディアリテラシーを防災視点で学ぶ。防災の知識を深めながら、メディアリテラシーについても理解し、技能を身につける。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり



<p>実践内容・方法</p>	<p>「私たちにも、マスメディアから発信される情報をさまざまな角度から批判的に読み取る力であるメディアリテラシーが求められています。」(東京書籍「私たちの社会 公民的分野」p.83)に基づいて、政府発表の被害想定と対策の資料とそれが新聞記事ではどのように報じられているかを比較する。「悲惨な想定」がクローズアップされて、絶望的な気持ちになるが、よく資料を読むと、備えれば被害が減らせること、助かる可能性の方が高いことが読み取れる。</p> <p>▼授業プリント</p> <div data-bbox="491 757 1417 1429" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"><p>[Mission!!] 逆転の発想！</p><p>資料を参考に、違った視点から新聞記事を考えよう。</p><p>人々に絶望感ではなく、防災に前向きに取り組もうという希望を与えるような見出しと記事を考えよう！</p><div data-bbox="517 1003 1385 1079" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">見出し</div><p>.....</p><p>.....</p><p>.....</p><p>.....</p><p>.....</p></div>
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 防災と災害はまったくの別物という認識を当たり前の感覚にする必要がある。それと同時に、防災に取り組んでいると感じる絶望感を希望・未来志向に変えていきたい。本実践は、生徒たちの資料活用力を伸ばしながら、データに基づいて「正しく恐れる」ことに繋がると考えている。・ 本プランを実施した2学期の授業の位置づけとしては、「高齢者の事故が増えているは本当か？」をデータを元に読み解き、逆転の視点から記事を作成するという授業学習の応用として、宿題とした。宿題の個人作業となったため、どのくらい身についたかの評価は「かなり」とした。今後、3学期中に復習予定である。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">工夫</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 5px;">課題</div> </div>	<p>1 学期は、「防災化」授業を軸に置いて授業展開を行ったが、「生徒が飽きる・飽和する」線の見極めも必要となる。そこで、2 学期は、社会科のメインテーマを「交通教育」に置き、時々、防災について取り上げるといった方針をとった。教科書の単元を交通・防災視点で学習するものである。尚、「子どもの命を救う」という目標の下、これまで防災教育で確立してきた手法を交通教育に活かす実践を今年度から始めた。このことは、防災教育の効果を上げる上でも有効であった。どうしても災害ばかりを取り上げると、災害発生頻度は高いとは言え、生徒にとっては「非日常感」が出てしまう。そこに交通という日々関わるテーマを学習することで、交通を「日常での防災」と位置付けることで、日常での危機意識を高め、周囲の環境や社会の仕組みについて意識することにも役立つと考える。</p>	



記入日	2020年1月14日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	15(授業実践⑭)
タイトル	非常食のローリングストック調理実習
実践担当者のお名前	鳥井(家庭科)
実践にかかった金額	43,360円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年6月4日～6月28日
実践の所要時間	1クラス 50分(2コマ)×3日=5時間 3クラスで実施 計18コマ
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	高校生(女子)
防災教育の対象者の人数	約80人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所 例:〇〇小学校体育館	目黒星美学園中学高等学校 普通教室・調理室
★実践に必要なだった特定の能力を 持った人・物品・ツール・知識等	家庭科教員, 期限の近い非常食(a米・焼き鳥缶・ヒートレスカレー等)

達成目標	<p>【目的・目標】 期限が迫った非常食のローリングストックの実行。日常食で美味しく食べることができるようアレンジレシピ開発。</p> <p>【背景・経緯】 私立学校は、独自で生徒・教職員の備蓄を準備することが必要である。本校でも定期的に非常食を入れ替える必要があり、期限が迫った食料の有効活用法を模索している。</p>	
どの力を身につけよう としましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し



実践内容・方法

1 限目 ローリングストックを知る

<https://tokusuru-bosai.jp/index.html> の備蓄の心得を参考資料とし、備蓄のあり方について考えた。ローリングストックを家庭でも日常的に行っていくことの大切さを学んだ。しかし、備蓄食は日常でそのまま食べると美味しくないと感じてしまうものもある。家庭でローリングストックを行う際は、5年保存などの保存食でなくてもよいことを学んだ。普段食べなれているレトルト食品なども取り入れることで、美味しくローリングストックができることなどを知った。

2～4 限目 防災食アレンジレシピコンテスト

2020年に期限を迎える備蓄食が学校に多くあった。この備蓄食をそのまま普段の食事に取り入れることは美味しくないと感じる人も多い。(被災した際は別である)そこで、備蓄食を美味しく食べることができるよう、備蓄食品を使ったアレンジレシピコンテストを行った。

①まずは各自で、学校にある備蓄食（a米、ヒートレスカレー、保存用ビスケット、えいようかん）を使ったアレンジレシピを考える。

②5～6名程で1グループを作り、グループ内でプレゼンし、各グループ代表レシピを選出する。

③代表レシピのプレゼン資料を作成。

④クラスでプレゼンし、投票数の多かったレシピを採用。



5・6 限目 調理実習～学校の備蓄食でローリングストック～

まずは、a米にお湯を入れ作り方を実演。箱の中身などを全員で確認し、被災した際の実践方法をイメージする。そこから調理開始。

《採用されたアレンジレシピ》

【主菜】

- ・焼き鳥缶でチーズダッカルビ（やきとり缶使用）



【主食】

- ・a米カレードリア (a米, ヒートレスカレー使用)
- ・おこのめ焼き (a米使用)
- ・コロッケカレー (保存用ビスケット, 焼き鳥缶, ヒートレスカレー)

【デザート】

- ・ファールトン (保存用ビスケット使用)
- ・フルーツヨーグルト (保存用ビスケット使用)
- ・えいようかんあんみつ (えいようかん使用)

特に好評だったのは、えいようかんあんみつだ。材料は、えいようかん (さいの目切りにし、あんこの代用として使用)、粉寒天、きな粉、黒蜜、みかんの缶詰) ほとんどの材料が、乾物や缶詰のため保存期間が長い食品である。さらに、寒天は常温でも固まるため冷蔵庫を使わなくてもできる。ローリングストックだけでなく、実際に被災した際にもデザートとして作ることができるのではないかと考えた。



得られた成果

学校にどのような非常食があるのかを知ることができた。さらに、どのような工程でa米を作るのか、実際どのぐらいの量のご飯ができるのかなどイメージすることができた。学校で被災した際に、a米は利用頻度が高いと思われるため、積極的に生徒が食事班に入り教員の補助にまわることができるようになると思う。

備蓄食のアレンジレシピコンテストでは、限りある材料の中でレシピを考えるため、思考力や想像力を高めることができた。そして、プレ



	ゼンテーションの資料作りやクラス内発表では、グループで協力する姿勢やどのように伝えれば自分たちのレシピの魅力が伝わるか考え、工夫をこらしたプレゼンを見ることができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	アレンジレシピを考える際、料理の作り方がわからないということがあった。教室で準備をしたため、パソコンを使える環境がなかったため、すぐに調べることができなかった。教室で作業する場合には、家にあるレシピ集などを準備させておくとよい。もしくは、パソコン室で作業すると効率よくアレンジレシピを考えることができたと思う。 (今回あった例：保存用ビスケットを使ってチーズケーキを作りたい→チーズケーキってどうやってつくるの？分量とかもわからない等)	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	全国の料理をつくる担当の方たちへ
伝えたい内容	家庭に眠っている非常食，期限が切れていませんか・・・？保存期間3年，5年といっても，あっという間に年月は過ぎていきます！1年に1度はローリングストックを行う習慣をつけ，キッチンの片付けついでに美味しい非常食を使ったごはんを作ってみましょう。
伝えたい相手	備蓄食を美味しくないと感じている方たちへ
伝えたい内容	α米って美味しくなさそう,,, 乾パンって食べ飽きちゃう,,, そんなイメージを持っていませんか？α米をぜひ食べてみてください。美味しいごはんです。パサパサしてるなあなんて感じた場合でも大丈夫！日常生活での食事では，カレードリアなどにアレンジして食べればパサパサ感も気になりません。乾パンも食べ飽きちゃった。そんな方は，砕いてチーズケーキのクッキー生地にも！フードロスをなくすためにも，備蓄食をアレンジして美味しく食べてみてください。



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	16 (授業実践⑮)
タイトル	表現しよう。防災への思いとアイデアをカタチに (外部コンテスト・コンクールの活用)
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)

実践にかかった金額	3000 円未満 (応募用の送料)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年夏休み
実践の所要時間	各自
実践の運営側で動いた人の人数	3 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約 110 人 (高 1・2, 中 3)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	各自の自宅など
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	外部コンテスト, コンクールの情報

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内外での防災学習・活動や被災地ボランティア研修に参加した生徒たちが学んだことを表現し、アウトプットするために、外部コンクールやコンテストを積極的に活用する。 学校には毎年、多くのコンテストやコンクールの案内が来る。生徒が自らの関心に合わせて、表現できるように、複数のコンテスト・コンクールを選び、生徒に提示する。 <p>【背景・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒は、積極的に防災諸活動に参加し、非常に良いアイデアと行動力を見せる一方で、その経験を効果的に表現する表現力や学んだことを深める洞察力を伸ばすことが課題となっている。
------	---



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>①コンクール・コンテストについて，学校に届くチラシやインターネットからなどで情報を集めて，応募する候補を選定する。</p> <p>▼今年度活用したコンクール・コンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA エッセイコンテスト 〆切:9月上旬 ・ スピリット・オブ・コミュニティ（ボランティア賞）〆切:9月上旬 ・ お金の作文 〆切:9月下旬 ・ 内閣府主催「防災ポスターコンテスト」 〆切:10月末 ・ SYD きらめきメッセージコンテスト 〆切:11月末 <p>↓</p> <p>②各活動（授業・地域活動・被災地研修など）</p> <p>ワンポイント★教員は，活動の中で，単に活動するだけではなく，その中で自分なりの課題を見つけること，課題に対しての解決策を考えることの大切さを伝える。</p> <p>↓</p> <p>③夏休みの宿題（中3）や事後活動（被災地研修）として，コンクール・コンテストへの応募作品を選択課題として課す。</p> <p>↓</p> <p>④作品の回収と応募作業</p>	
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本プランの一環で今年度，初めて内閣府「防災ポスターコンテスト」に応募した。中3の選択課題としたところ，3割の生徒が選択した。 ・ メッセージコンクールにおいては，被災地研修からの学びをまとめた高1の生徒の全国大会への進出が決まった。 ・ 2学期（9～11月）に防災教育を経験した中1に，学期のまとめとして，12月に即席の防災ポスター作成を課したところ，ポジティブで主体的な内容の作品が多く見られた。防災ポスターコンテストの応募期間は過ぎていたが，来年度以降にアイデアを持ちこして，応募に繋がれたら良い。 	



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫 <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px; width: 40px; margin: 5px auto;">課題</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px; width: 40px; margin: 5px auto;">工夫</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px; width: 40px; margin: 5px auto;">苦勞</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px; width: 40px; margin: 5px auto;">課題</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ポスターを選択する生徒が多くいたので、来年は授業で案を考えてから作成するとより良いものができるかもしれないと思った。 ・「課題」と言うと義務感が出るので、「ミッション」という表現を意識して使っている。ただし、提出の自由度が高い印象になると、提出率が下がるので、提出が必須であることもしっかり伝える。 ・中3に関しては、「防災化授業」の経験を作文にしてほしいという思いもあったが、その旨を伝えなかったため、作文の題材にする生徒はいなかった。あまり限定し過ぎるのは、生徒の思考を止めるので避けたいが、「面白い視点に気づかせる」という意味では、ヒントとして伝えた方が良かったかもしれない。 ・外部のコンテスト・コンクールで受賞できる人数は限られているので、選考に漏れた中でも優れた作品はあるので、「学内コンテスト」として、表彰する仕組みを作れると良い。 	



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	17 (授業実践⑩)
タイトル	言語力の向上を目指す活動を通じて, 防災スキルアップも目指そう! (「朝の 15 分の活動」における教材として防災を活用する)
実践担当者のお名前	後藤 (探求推進)
実践にかかった金額	1000 円未満 (プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 5 月 31 日・9 月 26 日 8 時 15 分~8 時 30 分
実践の所要時間	15 分 (1 回あたり)
実践の運営側で動いた人の人数	人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約 160 人 (高 1・2)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 中 1~高 2 の各普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	コーディネータ役の教員 (各クラス担任), プリント

達成目標	【目的・目標】 言語力向上を目指す朝の活動において, 防災を題材にした教材を作成し, 活用する。	
	【背景・経緯】 本校では言語力向上を目指して, 月に一度のペースで, 朝の活動の時間 (8:15~8:30) に「言語力ウィーク」を実施している。毎回, 様々なテーマを扱い, 言語活動を行っている。その一環で, 防災を題材にした教材を開発・使用している。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに



<p>実践内容・方法</p>	<p>(1) 高1「話すトレーニング」(5月実施)</p> <p>「1分で、うまく読めますか？」</p> <p>準備</p> <ul style="list-style-type: none">・「1分間で話す」訓練をするために、防災に関する300字程度の資料を準備する。・今年度の取り組みでは、「首都直下地震の想定と公助任せではなく、自助・共助が減災を推し進めるカギになること」「時間は多く残されていないので、住民に大都市災害の実相を知ってもらうために、災害の歴史を学ぶ機会を提供することが博物館や資料館に求められていること」を指摘した資料を使用した。 <p>実践</p> <p>ステップ①1分間で話してみよう その1</p> <p>隣の席の生徒とペアになって、相手が聞きやすい話し方を意識して、お互いに原稿を読み合う。</p> <p>↓</p> <p>ステップ②話しやすくなる工夫をしよう</p> <p>より良い話し方を目指して、原稿に発音や間などの工夫を書き込む。</p> <p>↓</p> <p>ステップ③1分間で話してみよう その2</p> <p>再度、隣の席の生徒とペアになり、工夫しながら原稿を読み合う。</p> <p>↓</p> <p>最後に自分の読み方を評価する</p> <p>「外部の方への電話、できますか？」</p> <div data-bbox="280 1686 1385 2011" style="border: 1px solid blue; padding: 10px;"><p>設定： ボランティアクラブが文化祭で、「防災を考える～もしものために私たちができること～」をテーマに発表会をすることになりました。〇〇さんのグループは、まず学校のある世田谷区の防災への取り組みについて取材をしたいと考えています。グループの代表として、区役所に取材依頼の電話をすることになった〇〇さんは、電話をするために取材計画をまとめました。</p></div>
----------------	---



ステップ①原稿を考えよう

設定を読み、電話で話す際の原稿を考える



ステップ②実際に話してみよう

隣の席の生徒とペアになり、実際に電話で話すつもりで話してみる。
片方の生徒は、電話の受け手を演じる。



自分の話し方の評価をする。

(2) 高2「話すトレーニング」(9月実施)

①「災害伝言ダイヤル171に挑戦！」(実施)

ステップ①「伝言内容を考える」(3分)

自分の置かれている状況の設定を読み、30秒の伝言内容を考える。

《設定》※生徒の実情に応じて、場面設定する。

○月○日○時○分頃、友人と○○で遊んでた時に震度○の地震に見舞われた。所持していた携帯電話で、災害伝言ダイヤルを使って家族に伝言を残すことにした。

- ・ ○時頃、帰宅予定であることを事前に家族に伝えていた。
- ・ 公共交通機関は、すべて止まっている状態。
- ・ 電話など通常の連絡手段は通じない。
- ・ 友人も一緒にいて、けがはしていない。
- ・ 所持金は○○円程度。

※家族内での災害発生時の約束が決まっている人は、その内容を入れても良い。

伝言内容は文章ではなく、話すポイントを箇条書きにする。



ステップ②「実際に話すーその1」(30秒)

考えた伝言を自分で声に出して言ってみる。



ステップ③「実際に話すーその2」

教員の「171の音声ガイダンス」に従って、番号を押すジェスチャー



	<p>を行い、隣の席の生徒とペアになって、お互いに伝言内容を話す。 資料として、「171の音声ガイダンス（伝言の録音手順）」を生徒に配布する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ステップ④「他の人の伝言を聞いてみる」（30秒×4） 教員が4名指名して、全体の前で伝言内容を発表させる。聞いている生徒は、自分の伝言内容との相違を比較する。</p>	
得られた成果	<p>チャレンジ！朝の活動のついでに防災スキルをアップする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語力向上の活動を通じて、171のかけ方など、防災の知識やスキルが身に付いた。 ・話す力を伸ばすために、防災に関する資料を繰り返しじっくり読むことで、防災についての知識理解も深まった。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫 工夫	<p>・各クラスのモニターを使って、実際に「171」にかけている動画を視聴した。</p>	